

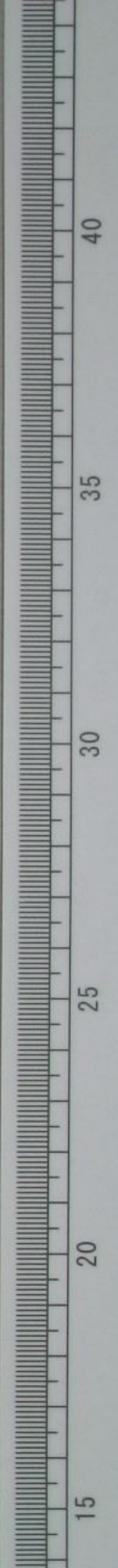
畫筌

山水
竹 水
岩 草
降 芥
枝 芥

二

~~E~~
150
2

逍遙文庫
文庫 6
1296
2





畫筌卷二

目錄

漢山水

和山水

墨繪山水

雪中山水

真山水以上山水

真水

行水

草水

波

飛泉下向浪

瀑布勢

瀧勢

川流勢

青海波

池水紋以上水

四時花部梅

灑濁

桃

海棠

標

棟棠

紫藤

月季花



文庫6
1296
2

畫卷之三目錄

櫻草

雞腿兒

牡丹

碎米齋

土筆

蔓青

同墨繪
以上
春

米囊花

蜀葵

燕子花

睡蓮

蘆

石竹

梔花

萱草

百合

山丹

蓮花

秋海棠

黃蜀葵

鳳仙花

牽牛花

菊花

朽葉菊

淡紅菊 白菊 黃菊
鮮菊 紫菊 菊蓋

木芙蓉

蘭
并墨
繪

浮蓋

桔梗

木槿

龍膽

胡枝

野菊

芭蕉

芭

楓樹
以上
秋部

枇杷花

南燭

水仙
真行冊

山茶花

茶梅花

万年青
以上
冬部

描諸木大意圖

諸木降枝圖

岩石之圖

四時通用

描竹法

竹之圖

東坡竹圖

檀芝瑞竹圖

松

同茂枝

新羅松

蘆竹

吳竹

燒又竹條

下州

苔

畫卷之三目錄

〇二

畫筌卷二目錄終



守信筆

漢

畫筌全卷之二

筑前直方

魯軒林守篤編輯

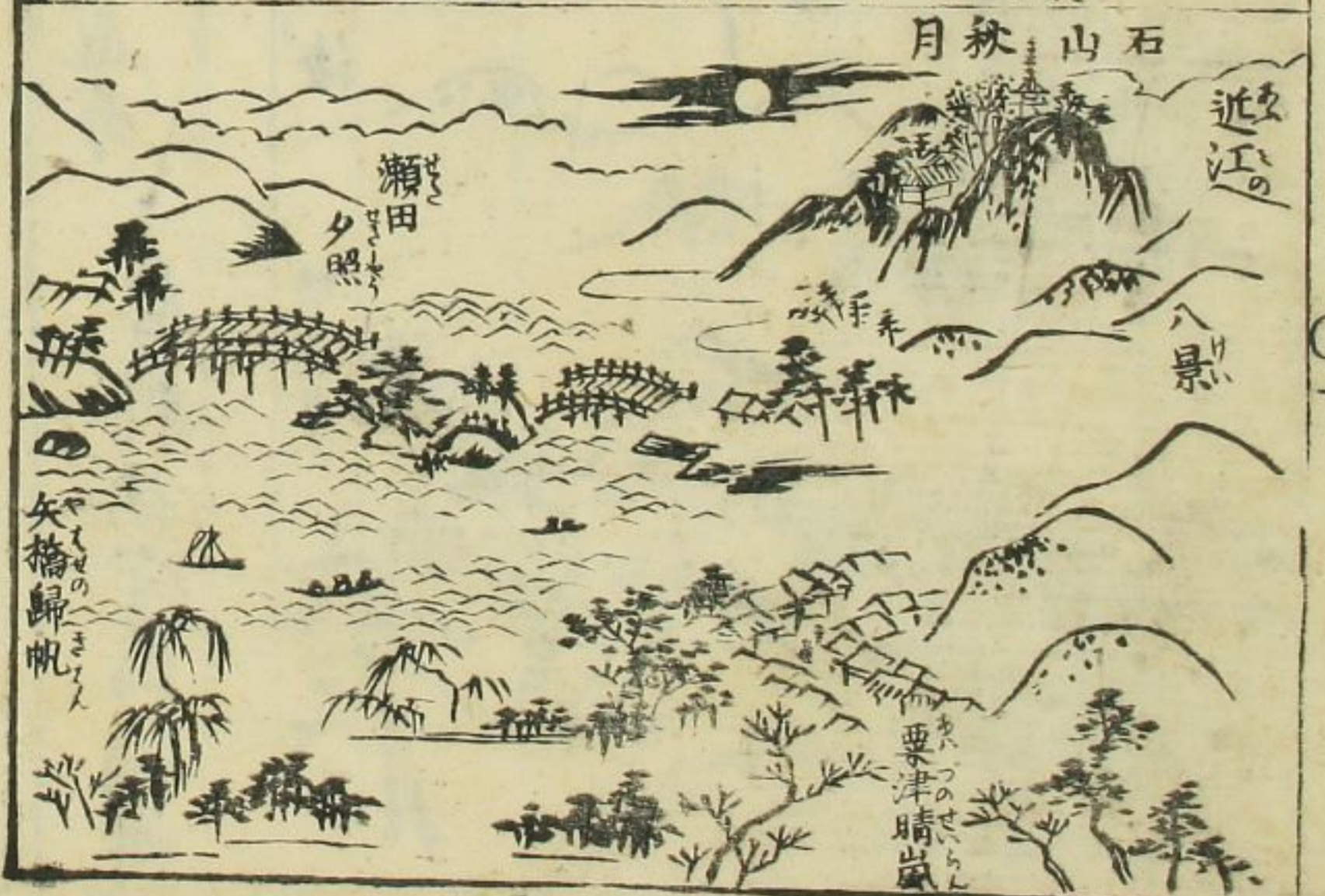
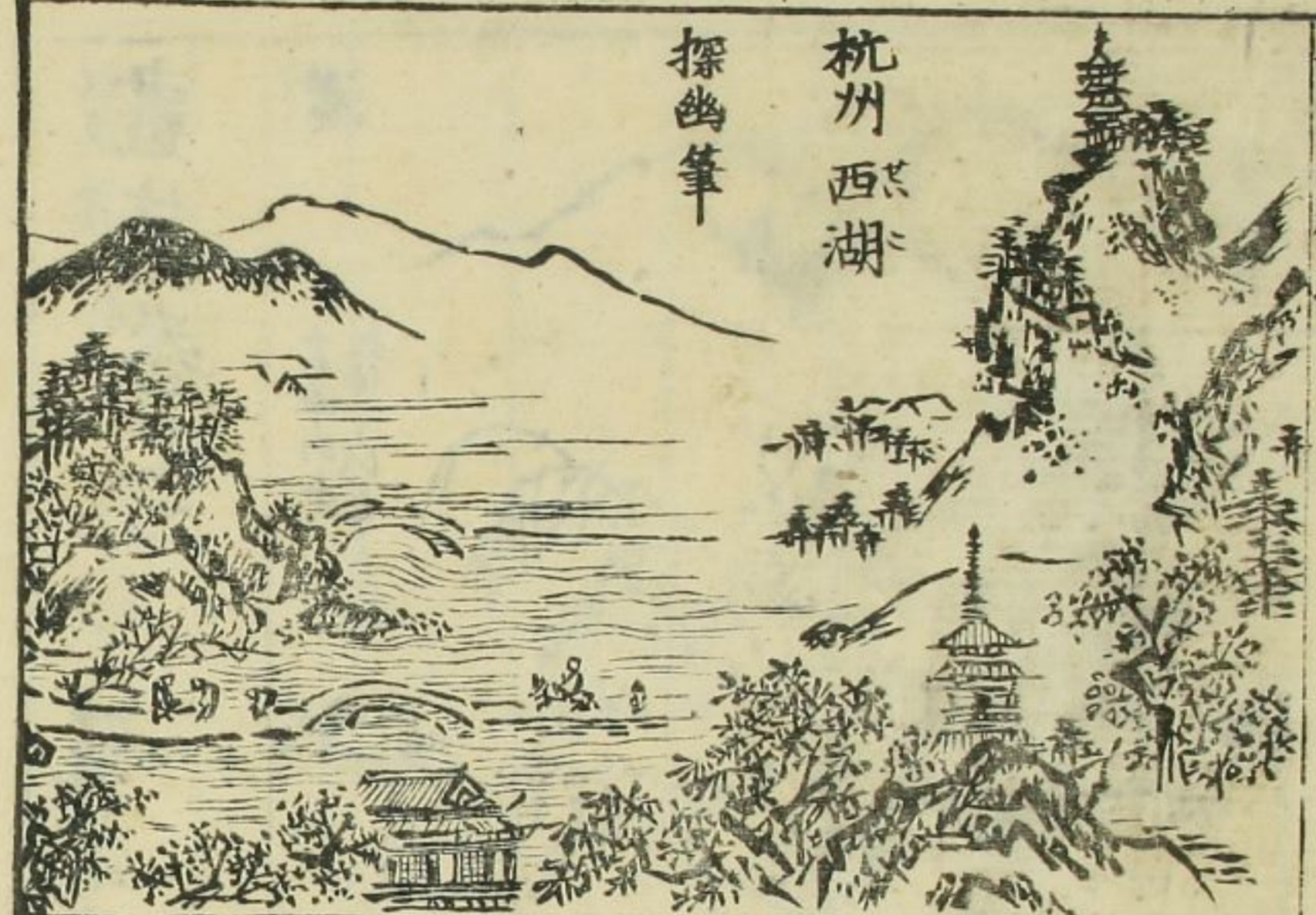
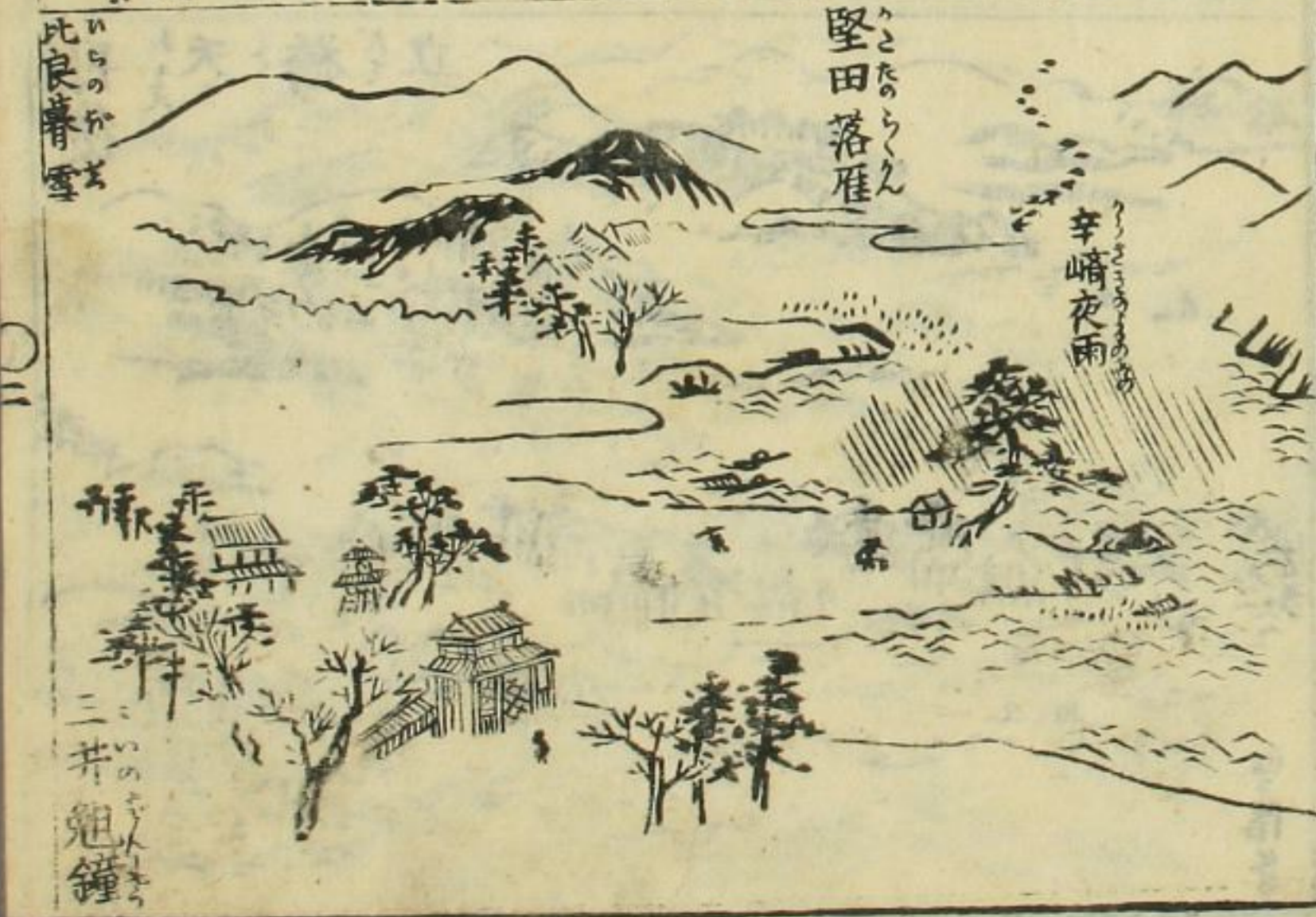
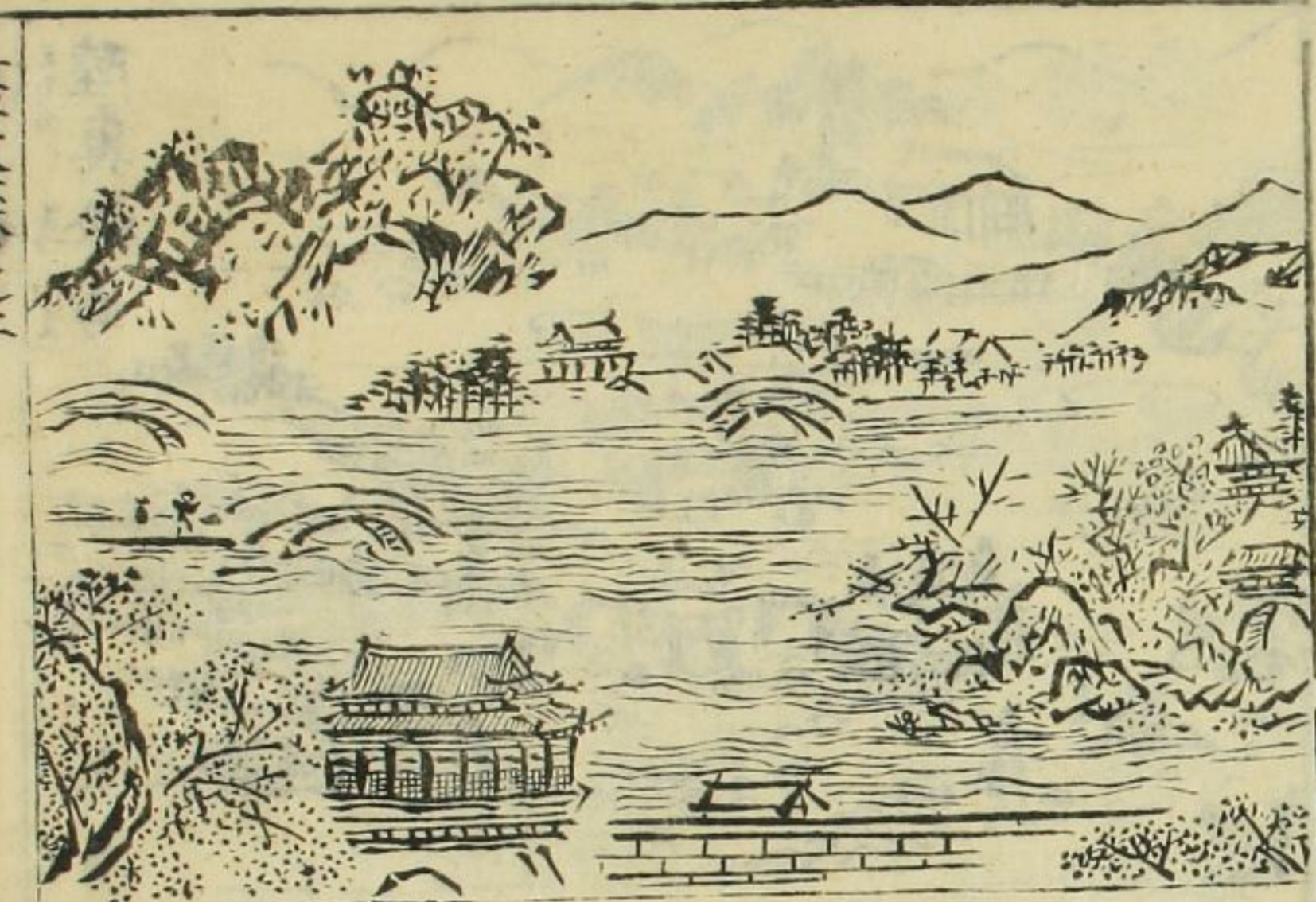
石中の糸
起休ういむいふ

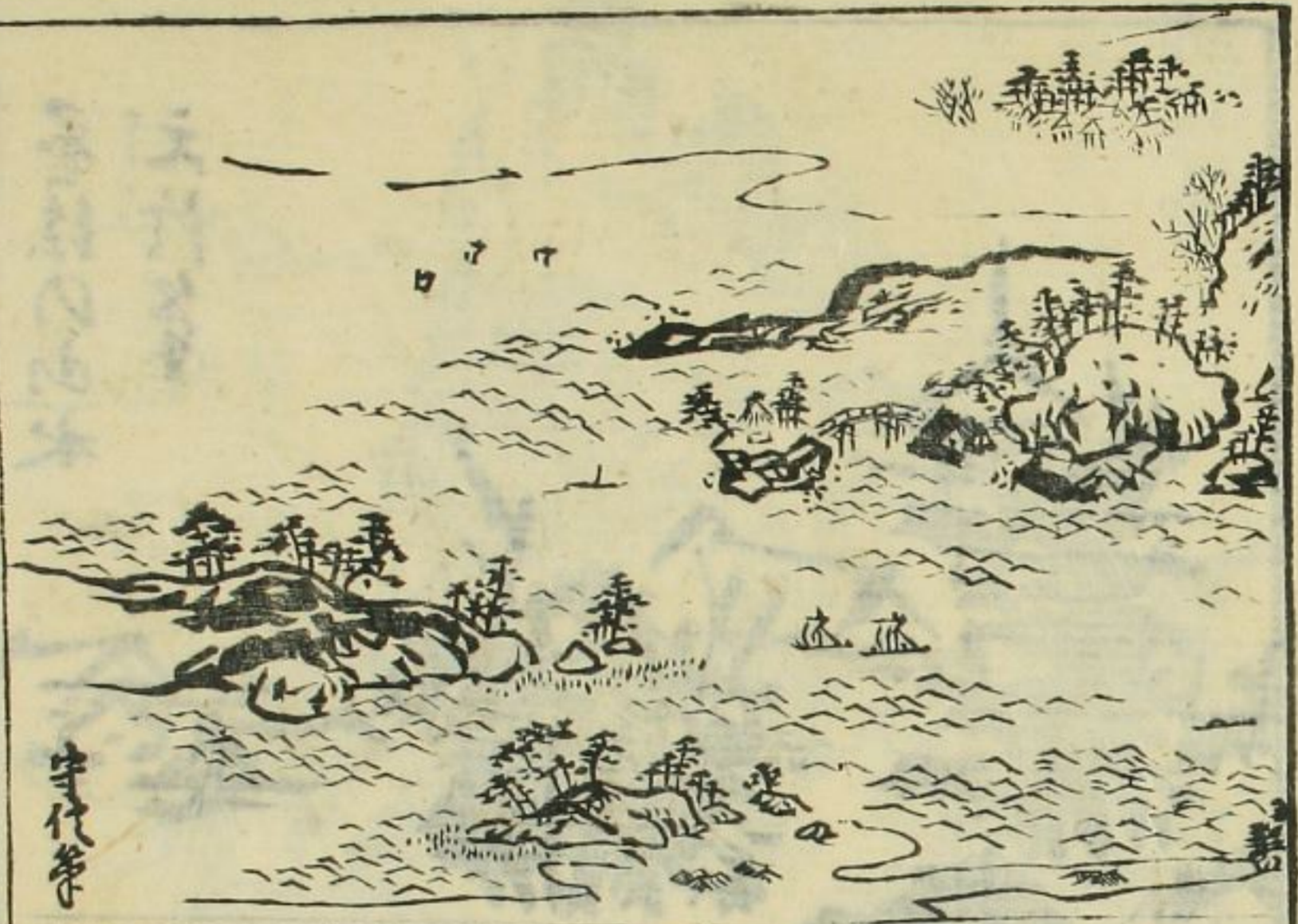


倭

様え甘

守信





墨法の山水
元信筆

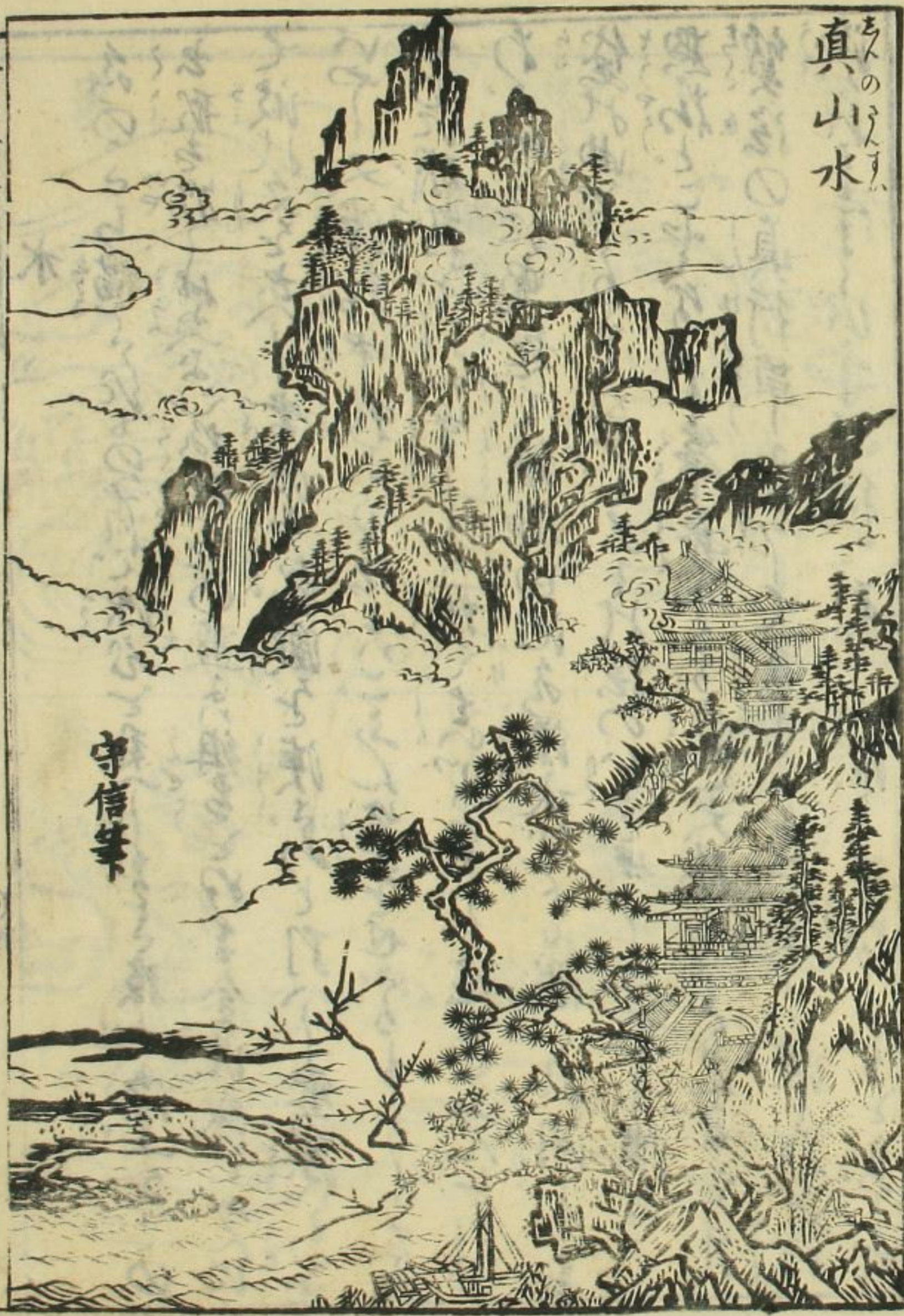


守信筆

北引の山水
をとりて
書す



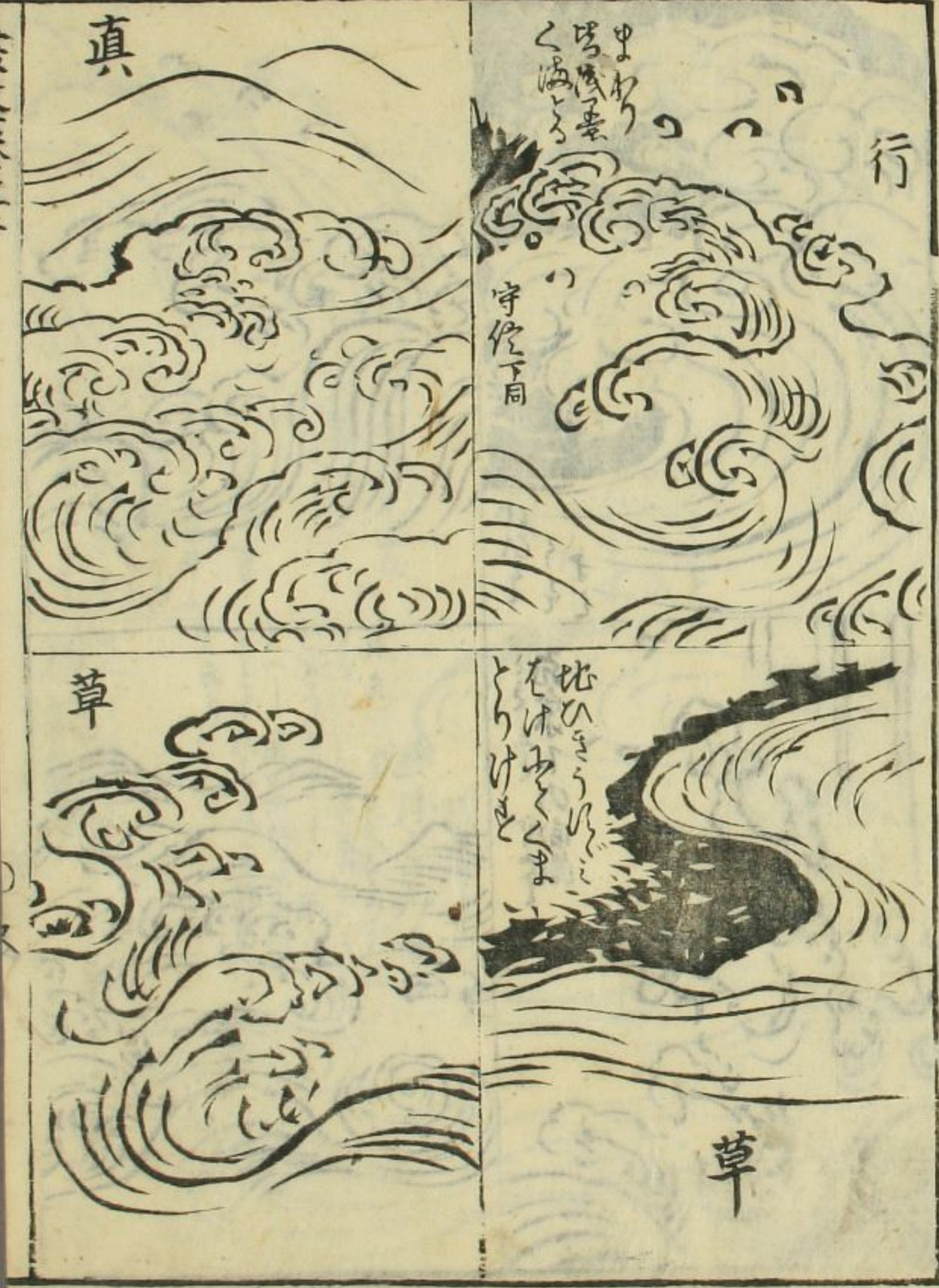
真の山水
真山水



守信筆

水

名のこら描ぐはものかれ深心と用へ。まこと弦一深心かこの
 去形を強し体よふは格彩の畫六緝書とゆき全流成とふんに
 て波れ文と去へ一帯に乾澱を淡うると引へ一水の深心ま
 へや一又淡彩中彩赤の弦よこふん筋をせざるも一ま
 筆もに羽粉と引い重し一信こまかるとる弦よこふんと引い
 わさやうに電起て佳師曰池名流水かとも隈く北海とるま
 代筆れ曲とりつる一早し只これ弦のかと考くさる不漂行く
 物柄とこふなり一帯奔るるう長し大板みとるなり一凡
 質弦の真行草小字にて應るる色にまへ一深心れ弦
 浅れとまへに引れ統てわく一懐く守淡くさると勢とん



真

行

草

草

中より 波の勢 くらげ

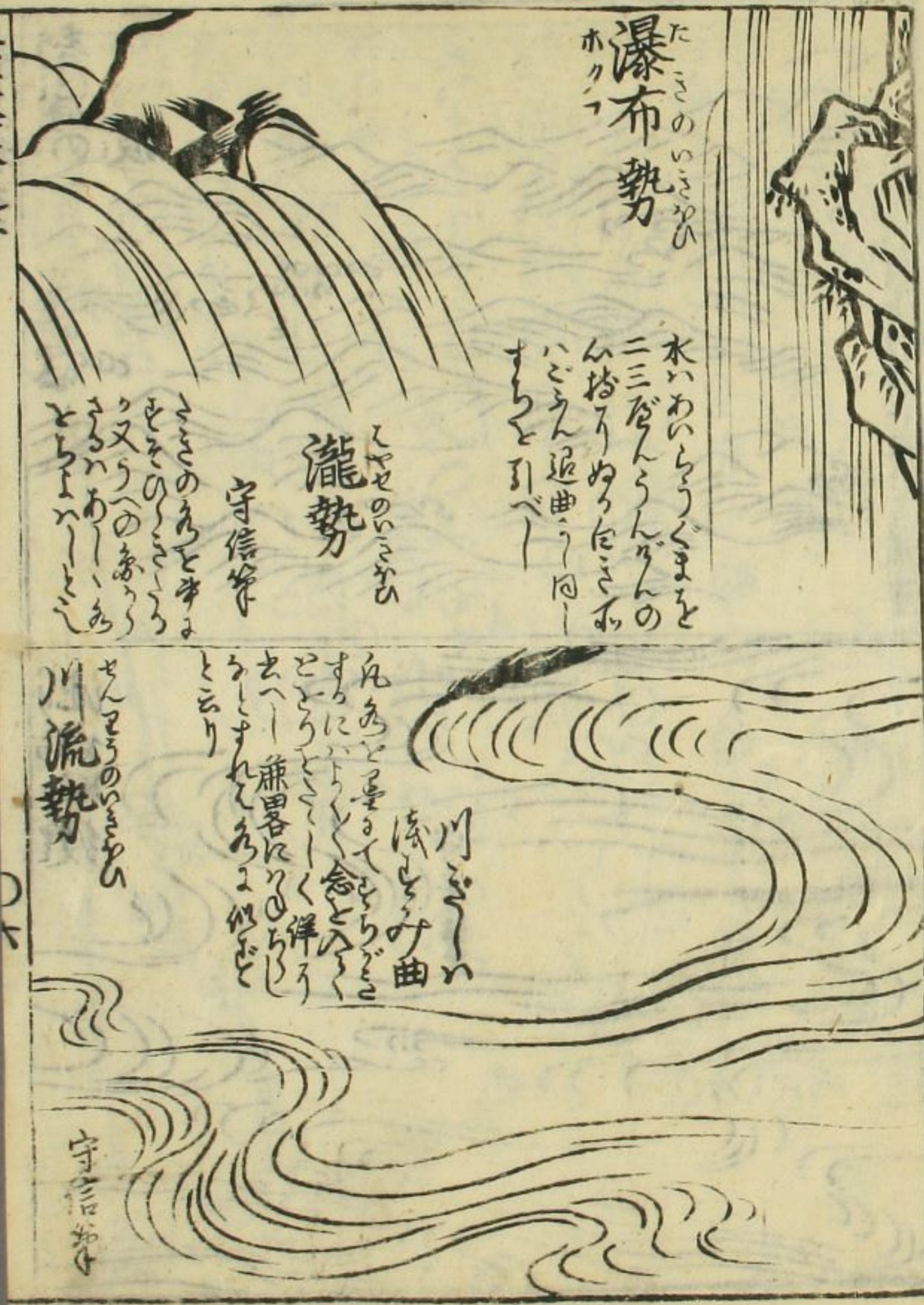
守代下目

地ひきうり
をけあぐま
とりけき



水ひるき
うま
すこ

水戸下の向流



たみのさし
瀑布勢
ホクッ

水いあらうくまを
二三なるうんがんの
ん持りぬるたさあ
はごん退曲う回
すらと引べー

しやせのいさかひ
瀧勢

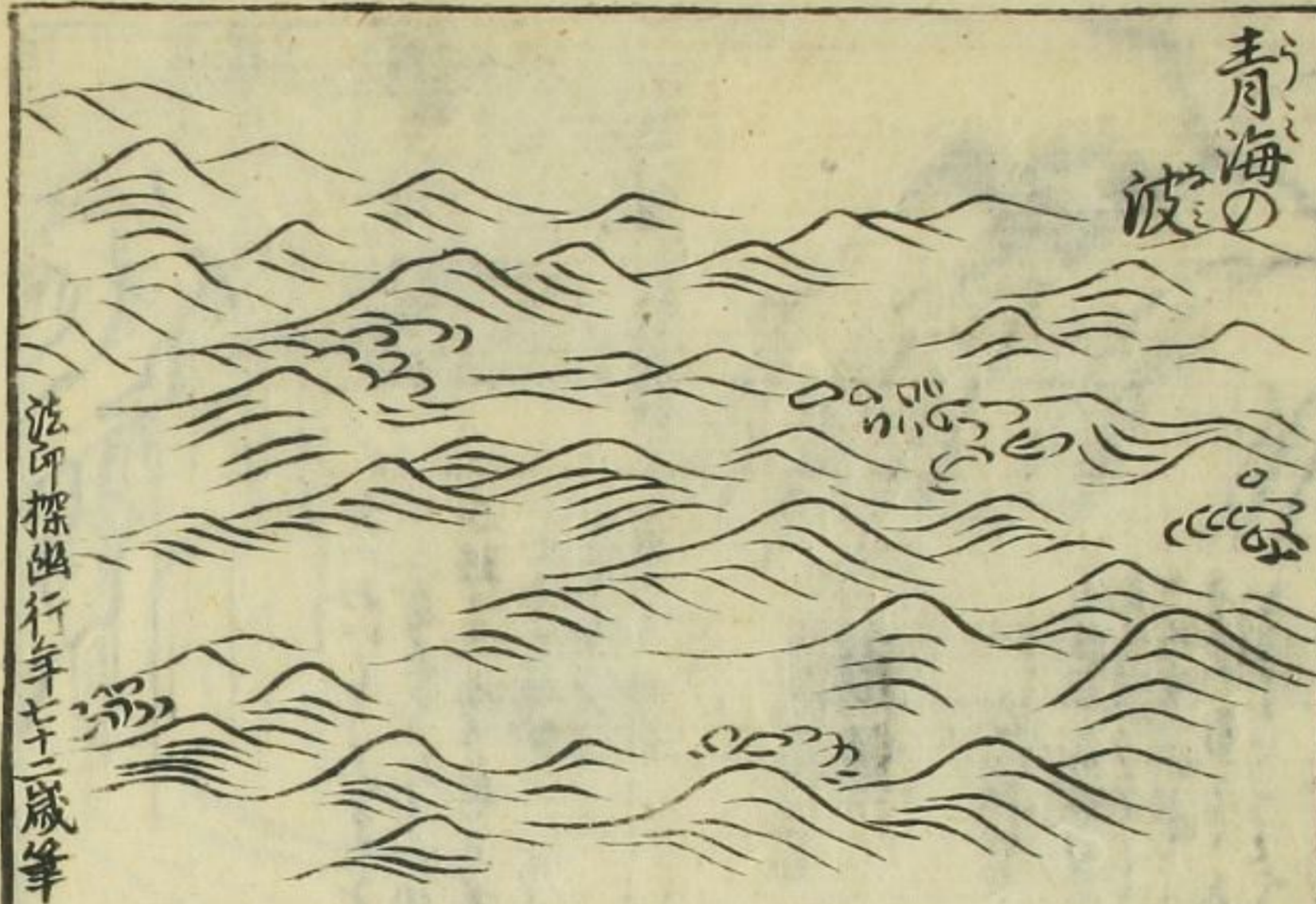
守信家
このあまを
そそのの
う又うへのあ
さるいあ
とらよーと

せんまのいさかひ
川流勢

川流のいさかひ
流とみ曲
れあどま
すらに
とさう
まへー兼
かすれ
とさ

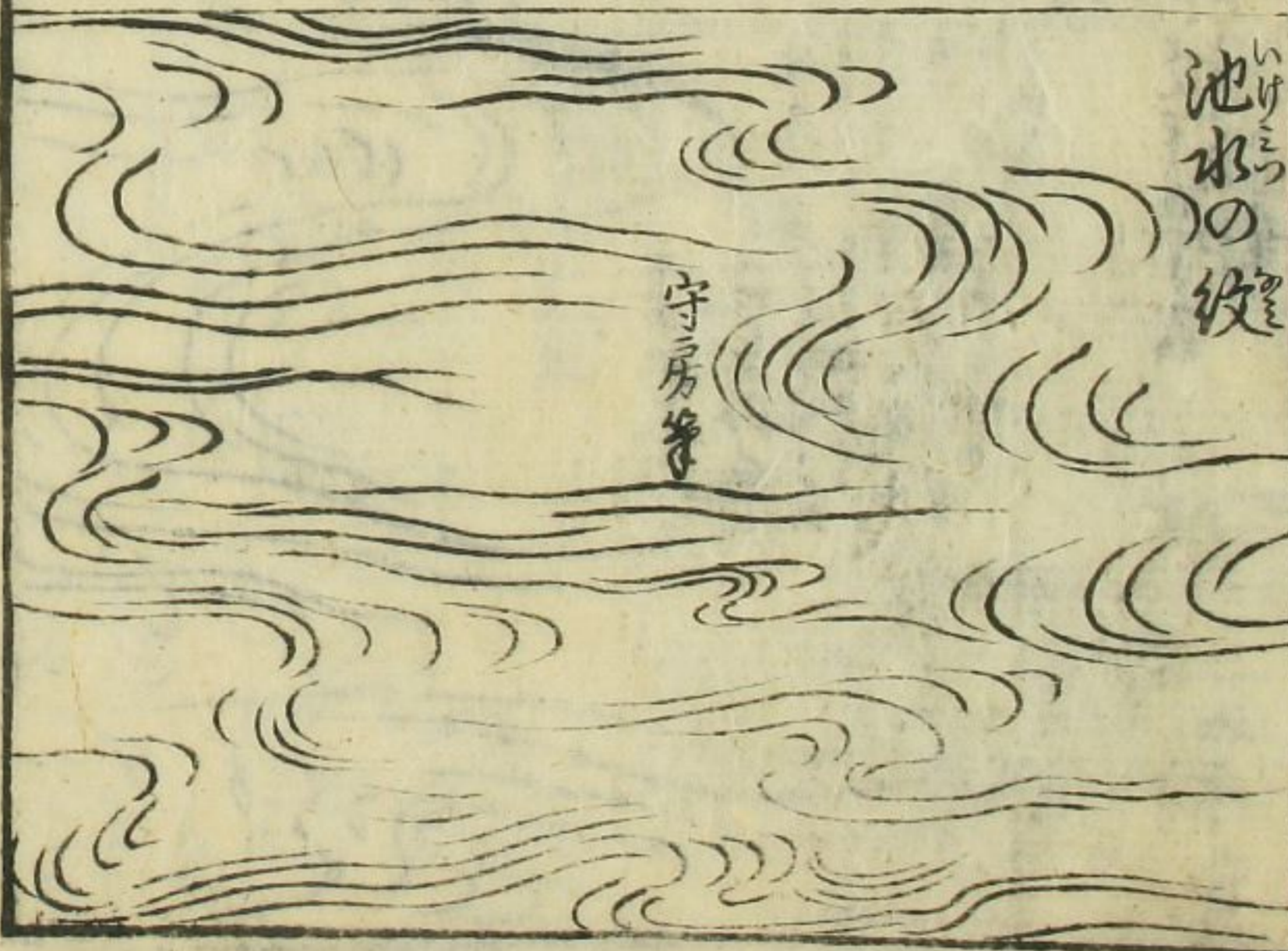
守信家

青海の波



法印探幽行年七十二歳筆

池水の紋



守房筆

四時化部

春

白梅之白縁を以て
没骨之淡ぬり胡粉
にて端と括束と
ぬけを又こゝろを
ぬり曲とりの滴と
をい氣れ脱て所し
花中のみえへ白縁
を以て括束を以て
を以て括束を以て



此の里のふつとて花とぬる
 へはよまへー白源わいらう合英土ぶとうすくぬる末すく
 小枝のうらと汁塗成の葉汁糸書おろくあ入まへー○梅樹貼立凡
 付まると先陰のをとぬりてか初にすくと用はと白源を以墨と加へて
 陰をうとととみく描ととと扼ハ皆淡くまとの○紅梅花 総の花
 瓣と肉色ふて淡波骨て瓣とに中の方より生多にあくと波はと糊粉
 いて退曲とり其外ハ白根も同一苞へ来とぬり生多に括こふのさび枝
 小源とぬるとと○紅梅貼立花ハ墨以用して肉色よて團と化潤脂
 しく花瓣と描起仕まると存同一色常葉の時ハ同一からん
 花と生多のの具しく波骨へ生多ふて花れ中の方より曲とり

海棠花

守信筆

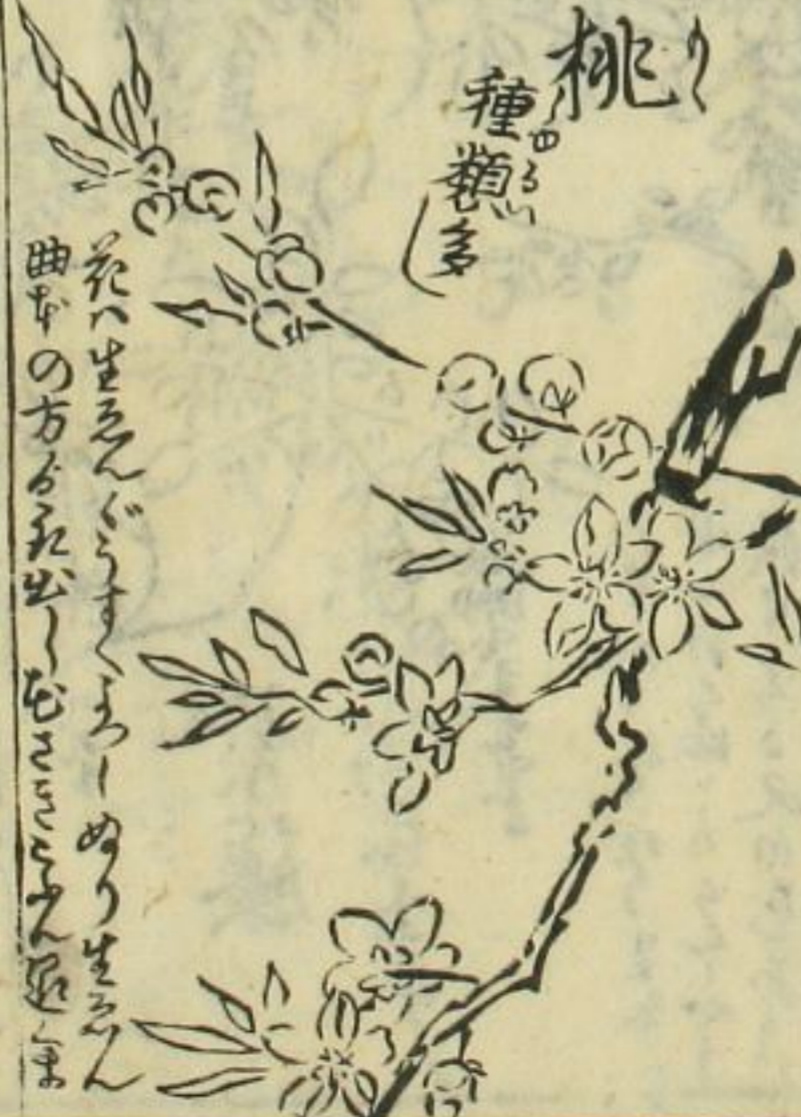
躑躅



紅色肉色
 ゆり朱ゆる
 生多くま
 上の一瓣ハ
 同くさく
 他亦ハ都と
 けてぬ

桃

種類



花ハ生多にいらすしうーぬり生多に
 曲中の方より生多にいらすしうーぬり生多に

櫻



殊きさうのいふんふん
 少のぬり成ハ三五も

海棠



畫卷之三

出... 花... 葉... 枝... 曲... 花... 葉... 枝... 曲...

櫻花

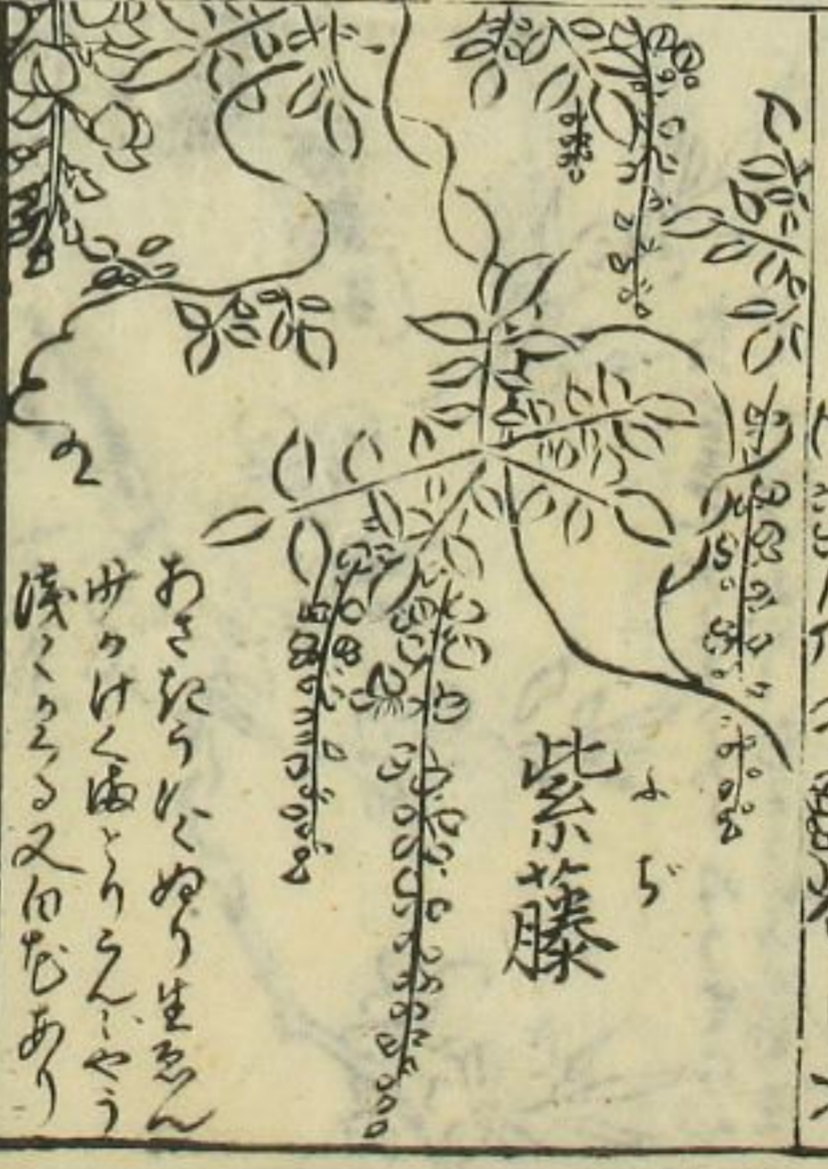
胡椒... 肉色... 作... 朱...

棣棠



花... 葉... 枝... 曲...

紫藤



花... 葉... 枝... 曲...

月季花



月... 花... 葉... 枝... 曲...

ハ下... 月... 花... 葉... 枝... 曲...

去へし又不地毛邊紙みまひ生紙
 深淡虫まゆ(い)び虫いと一筆物と
 云九一筆のなぐり物い言まると雞
 然大袖これ者と上功よ給ふとみ
 眞筆の陰の袖字此者も似せ易
 て似ることなり上巧よあふとんむ
 描とめらば浮沈ト緩と彩色
 此應する加減の深秘があらぬ
 もの之固うに柔あつて時中されど
 聖あり

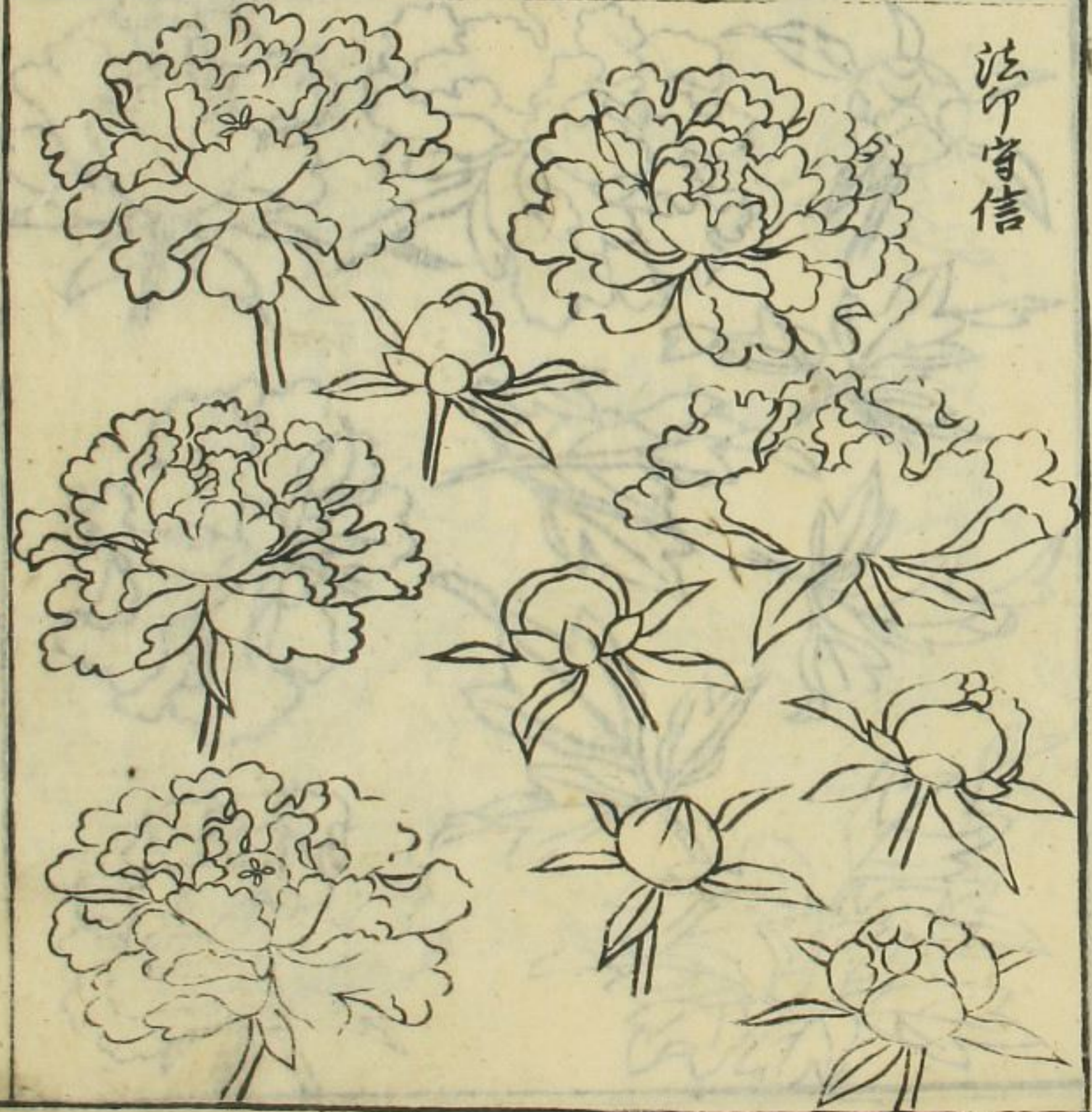


桜草
 紫白 淡紅
 七重草九
 重草も回
 なり



雞腿兒
 長白毛
 張去入
 皂
 朱
 肉色

白牡丹の白保
 ありめあく高麗
 塗粉粉退ぬり隈
 消心の白保塗上
 に友黄と掛実の白
 縁ゆり生多し括心の
 圓ふこえつて心肉色
 ○浅紅牡丹調
 具彫ゆり又上とあら
 ゆる生多し括二
 三度ね花壇とえん



法印守信

返張れ消 ○ 緋牡丹
 丹肉色塗又塗
 此牡丹に朱を塗
 又朱を膨れり上
 殺ぬと調脂ぬ
 三篇くぬれぬ
 濁と丹ぬ返ぬ
 〇 葉は赤ぬ
 縁青とぬり割ぬ
 内外の方に塗ぬ
 けい



又根は小く竹葉と
 必と描(肉色)とぬり
 合葉玉とかけ重ぬ
 かく割曲より同葉を
 一枯ぬぬぬ白緑に
 茎とひへへ他を
 の方より緑を
 けい 割ぬ
 本は書ぬこれ上
 朱すみ淡をへ

牡丹全體之圖



碎米薺

淡紅白あり
生あんくぐれ
立生あん去入
ふん勢白くぐれ
付立あめらう
まじ



葛夏月

葉と白縁
のりて二
縁の白色
むと以て塗
是松嶋中一係
あけくたたとるけ
くまきとらひ細手は



苦緑
曲

根はあん自
貝生あんド
ま汁かと兼
りらまじ

土筆

肉色付立り
白六女一付
ごらんつさ
朱すく夢入
杉葉ハ黄汁
よて怪玄へ



かぶら
墨絵



夏

采囊花 單白

むらさけ千葉の
白多ふあり

蜀葵

花ハ木種ハ似

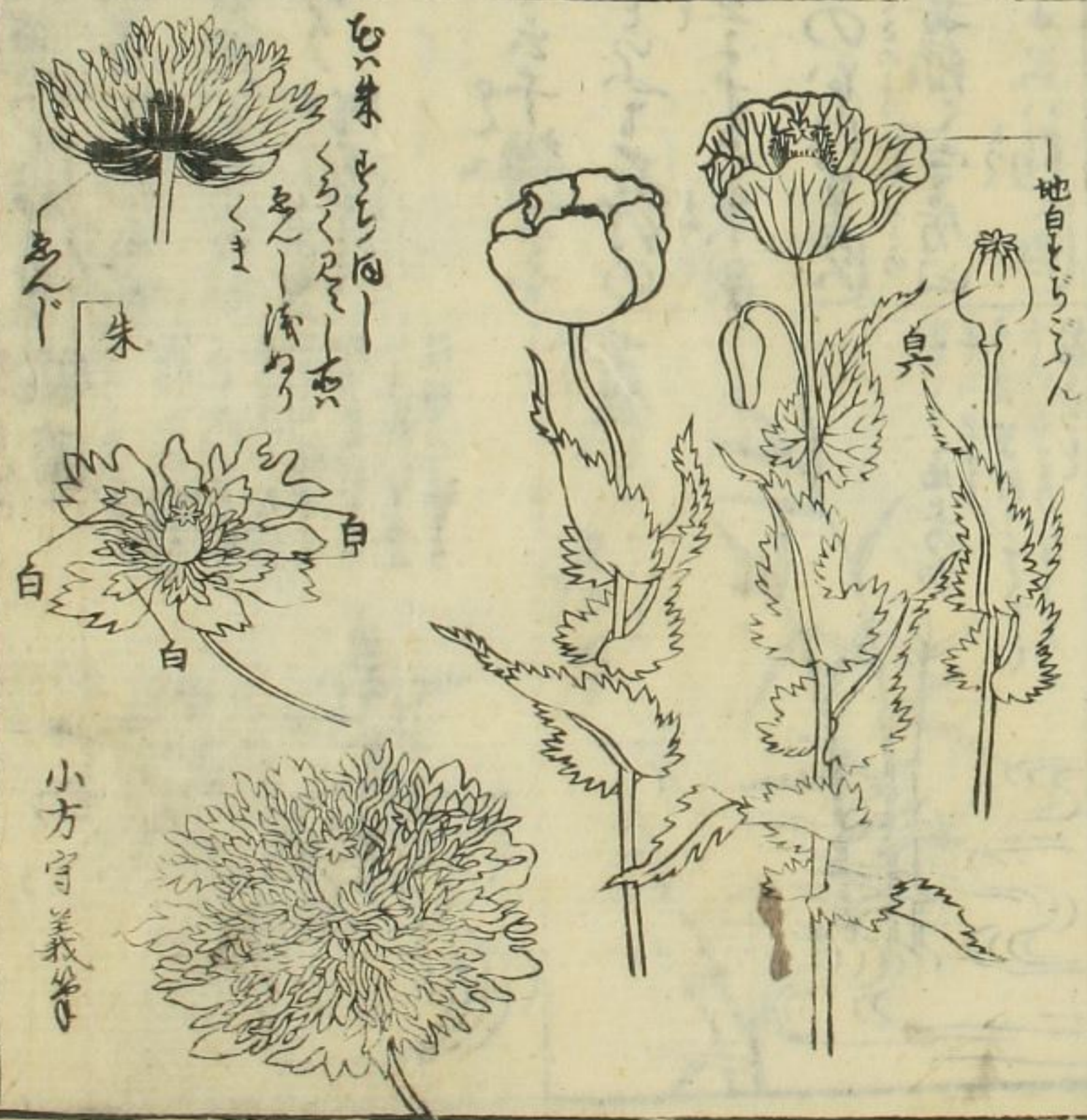
源紅淡紅紫白

單子葉の多あり

燕子花

紫白黄淡紫赤

数種あり又四時又



花用あり比と淡葱かてぬり生
 多ぐ淡之ぬり緝青から白
 いかれ方より人女曲と又白也
 淡之入し此節あり
 石竹

單瓣りゆと石竹と云千瓣りゆと
 洛陽花と云瞿麦と云石竹の
 比和と入る葉、緑と若緑守房曰
 此花と細く葉小く又白弱て魚

睡蓮
 花は白六やう
 すくぬりこえん
 二心人極くく
 ぬり若けまら
 うら白六生えん
 淡勢くゆと



蓋し
 葉若湯ま
 う日六



蜀葵



花は色は白の
 千葉やう

守信葉



畫卷卷之三

外の方いふ
 花の色は白
 六やう

まより花葉
 えては
 ぬり合葉
 朱す
 けと
 けり
 つかつ

只争太玉でいり

と云へむよ紫白

赤斑爛草干り

拖花

花六出色白草

又花小うて干葉

ある水拖と云也

萱草

花と丹臭よ菱葉

少一加へて彫る面

ハ深ゆる背ハ浅肉

うさ川だん



探幽筆

色の如ゆる肉の方成生を下にく
隈に出一外はそま付中ハ白線あり
草汁の加ゆる葉縁ぬり草汁割曲
とりて同まらとむく也

百合

花白一〇巻丹 莖高し七葉

のるに実と生し紅黄花と花上

黒斑の點あり肉色ぬり朱生後

〇山丹 又月花といひく又細

ゆり有む深紅色一〇鹿子ゆり

生急下此を調脂くは同星と云勢

せらら



くらな



畫大花三三

〇十一

秋

蓮花 花子紅白粉紅の三色を
 花心黄鬚阿り花辨を生色に
 白色れ具ふく塗花さ地の夾よ
 望生多ん淡曲とり出し同前と
 訂へし 外の方いど 是の粉紅あり○
 師曰蓮の花ハ早咲くはうり
 ころれとトらに必やくくは家こ
 名言描と心く葉此陰より出
 魚一蓮房ハ白緑具にぬる葉
 汁と以て星と作ら又星よりか



面よ少退て周と
 皆ぬる葉ハさん病
 葉ハ白緑めてぬる
 緑青ぬる苦緑よ
 退て葉汁さぬる
 湯こい曲さけは使
 葉争れ時さ葉
 汁さたの如て
 後緑青試さる又
 不地毛透紙よ雲



蓮花

〇七五

畫子の初に指と以て紙を抓皺
 と化し刷毛は淡墨を深く又一方
 おは深すと貼てさうと去筆に
 深すと合へ細と輕去へ又破
 墨此処の葉筆にて吸へか凡
 情あり墨は白線ぬり墨汁枯村に
 不とつくりなり

秋海棠

此花は正保の比神く唐より長嶺
 來り

黄蜀葵

畫家よりわんといふ

志うのたう

花生あんどうをぬり
 潤脂くぬれぬ
 花踏こみん
 さをい



茎白線筋く花生あんどうの
 志うて常れわ

藤黄具よて形あり
 或は没骨表の方ハ

志うにてかれ方よ
 つ曲れぬ出し花場
 より粉粉ゆく退
 隈も裏も同じ色
 肉のあは若黄をに
 てしらとひさ外ハ
 粉粉よく引心ハ生
 めん下はく辨れり
 おとろー如此又

とろ



その中に深きよき人々を畫し、
引鈴粉ひしんこなやく星と作るほしと作る

梢えだの潤脂うるしまて石竹の花いししやくの花形かたちにや
鳳仙花ほうせんか あぶまてつまこれかいと云

花の色はないろ紅白こうはく紅白こうはくお交まじりり
お黄おうお紫むらさあり

率あさく牛花うしな
花はな淡たん蒼そう濃のう蒼そう紺こん色いろ白しろ赤あかをを有あ

黄菊きく志しままれれぐぐと塗ぬ中ちゆうに朱しゆのの黄わう
色いろありあり周しゆうわわけけりり毎まい瓣はんにに文ぶん通つう塗ぬ曲きよく

○朽葉菊くしやきく肉色にくいろま
て彫ちゆうりり又また上うへままおおて
中ちゆうに朱しゆのの黄わうと塗ぬ
周しゆうに消しょう暈うんととななれ
片かたととににななれれ方かたより
限かぎりり出いだだれれ只ただ村むらにに
ままままとと巻まくく曲まりりをを
重おも花はな端はなよりより鈴しん粉こな
返かへららぬぬ心こころ中ちゆうにに生なえ
りり周しゆうわわけけりり黄わう葉え

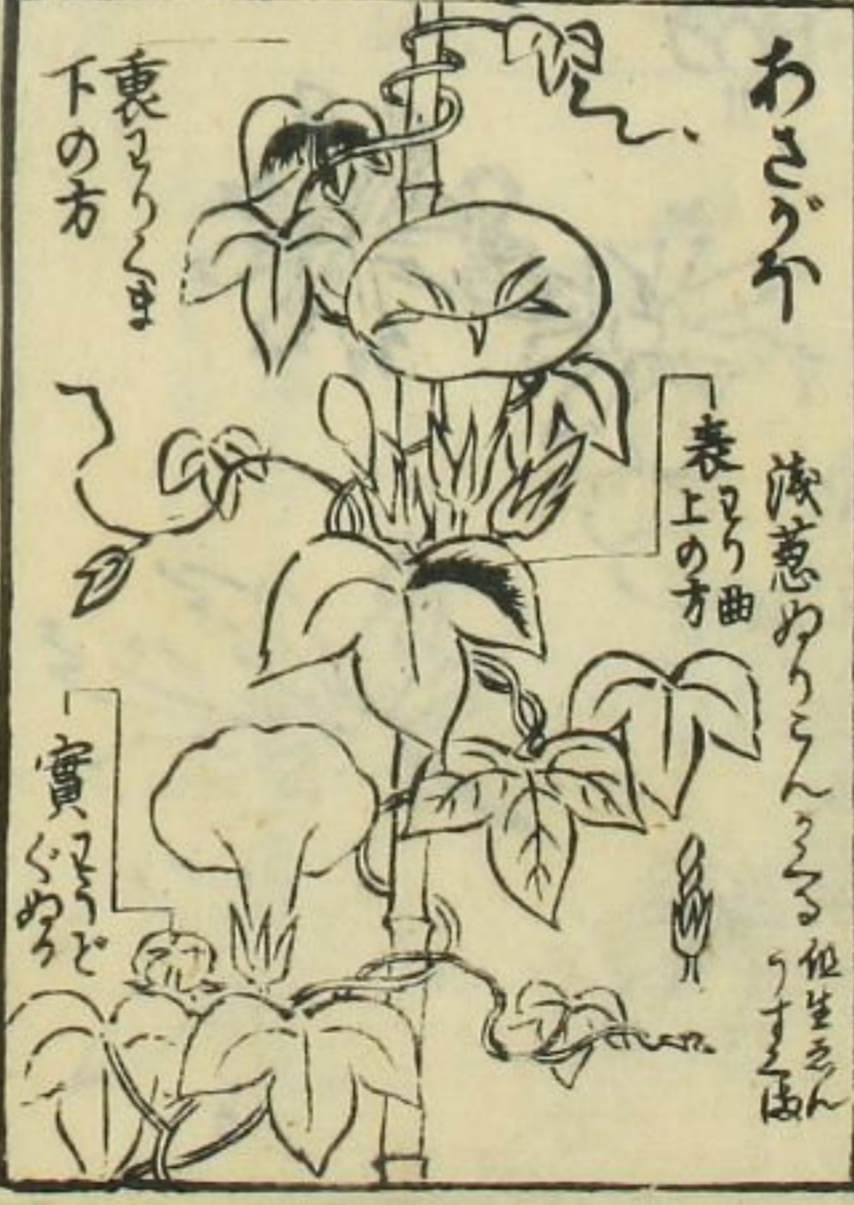
五ごけけすす又またままままののくく上うへまままま
くくちちららししくくくく肉にく色いろま
て彫ちゆうりり又また上うへままおおて
中ちゆうに朱しゆのの黄わうと塗ぬ
周しゆうに消しょう暈うんととななれ
片かたととににななれれ方かたより
限かぎりり出いだだれれ只ただ村むらにに
ままままとと巻まくく曲まりりをを
重おも花はな端はなよりより鈴しん粉こな
返かへららぬぬ心こころ中ちゆうにに生なえ
りり周しゆうわわけけりり黄わう葉え



わさび



わさび



裏の方

實

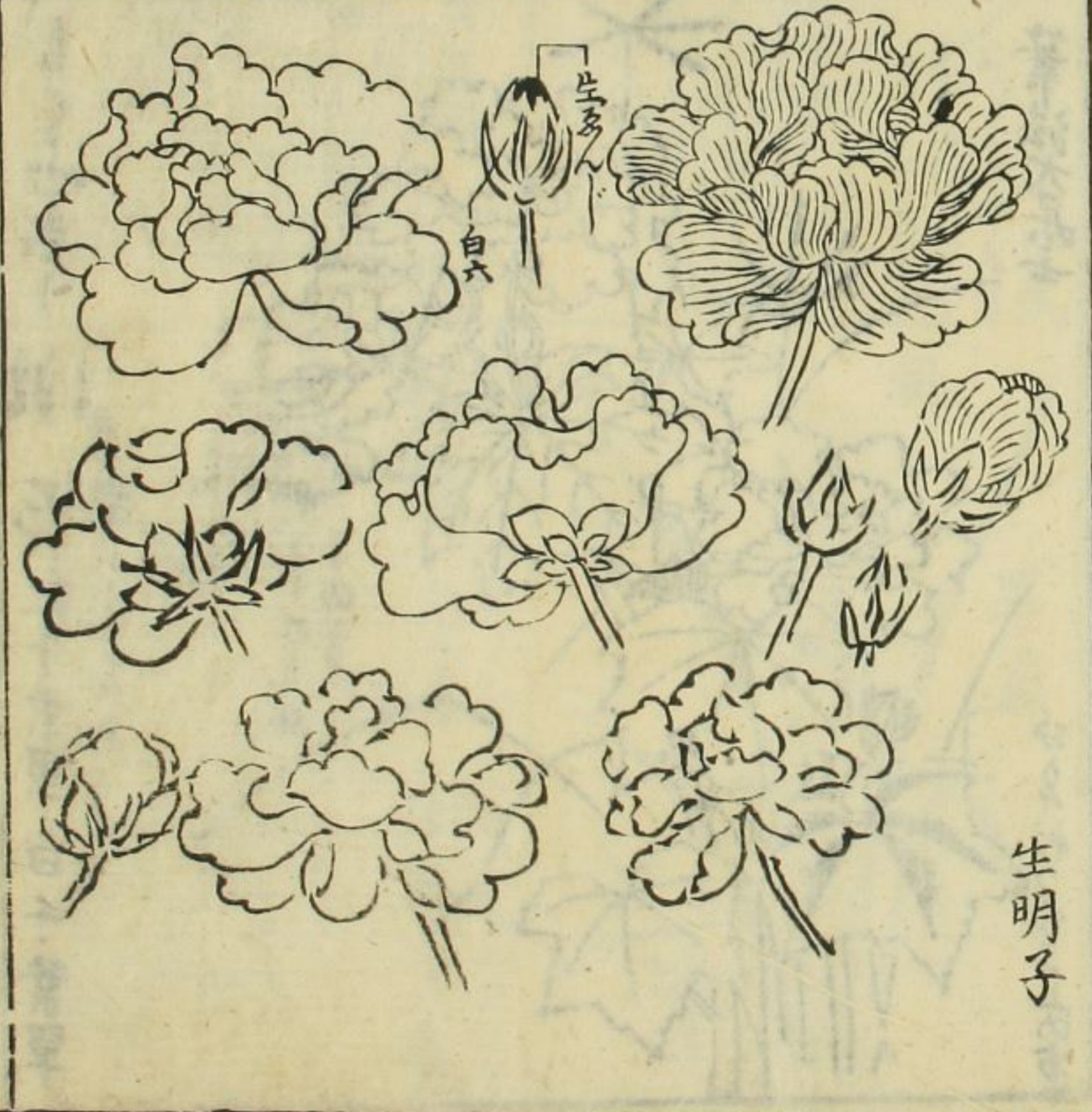
表の方

淡意ゆり

かけ粉にてとらふ○淡紅菊 綿油脂の具とわりぬ
 又挂中ニ添油脂と漬わり周にけし乾場よりこふ退曲ニ中ニ生えん
 塗白り取け粉粉少く筋をひく○白菊 淡粉粉ふてぬ白粉や
加ふは
 深く退わり曲れと引○黄菊 友黄のを汲ぬとさう
 海周をこふ退曲筋他まじうと
漬るもまき ○緋菊 肉色少く形わり又漬
 掛てそれより朱と以てわり塗又一面今けくまんたるに調脂と
 わり周よりけし辨とにたより調脂のく海にせし乾場より丹にて
 筋をこす○紫菊 油脂と少くをのりて塗調脂をまぬを場
 より加粉のより○菊れ蔬 白緑あてわりこふんと以て星と作
 次は黄とぬら萎ハ白緑諸花皆同ト生え今下はく括一括葉
 ハ黄土具わりて合黄土少曲より朱まみまを括とく海にる法若本
皆同

木芙蓉

調脂具白色と
 合せて形塗又上
 に一面今けく生
 油脂のく海に從
 肉ハ今よりぬ出
 外ハ増よりぬ出
 花場を少く退て
 深くして種柄の物
 みぬ少く処に極力
 と入る肉は場に



生明子

三ふん退曲り生
 多しんかき物とし
 外ハ拾得せし
 裏とゆふと八月季の如
 可も引いた蜀葵の如く
 内のはあんな曲ハ神人の
 葉ハ緑青の如し
 刻曲も鮮に且直ハ
 あし少及張村
 に柱すべし○白む
 ハ白緑をよらん退
 けり曲れ同とら
 と引べし



もくふよう
 花ハ紅千葉單白千葉單
 黄たるもあり

筆法大居士

おとせわりのまゝの上の方

蘭 四種あり



花ハ去りうたか
 めりかくゆら生
 多しんかき物とし
 とらと多

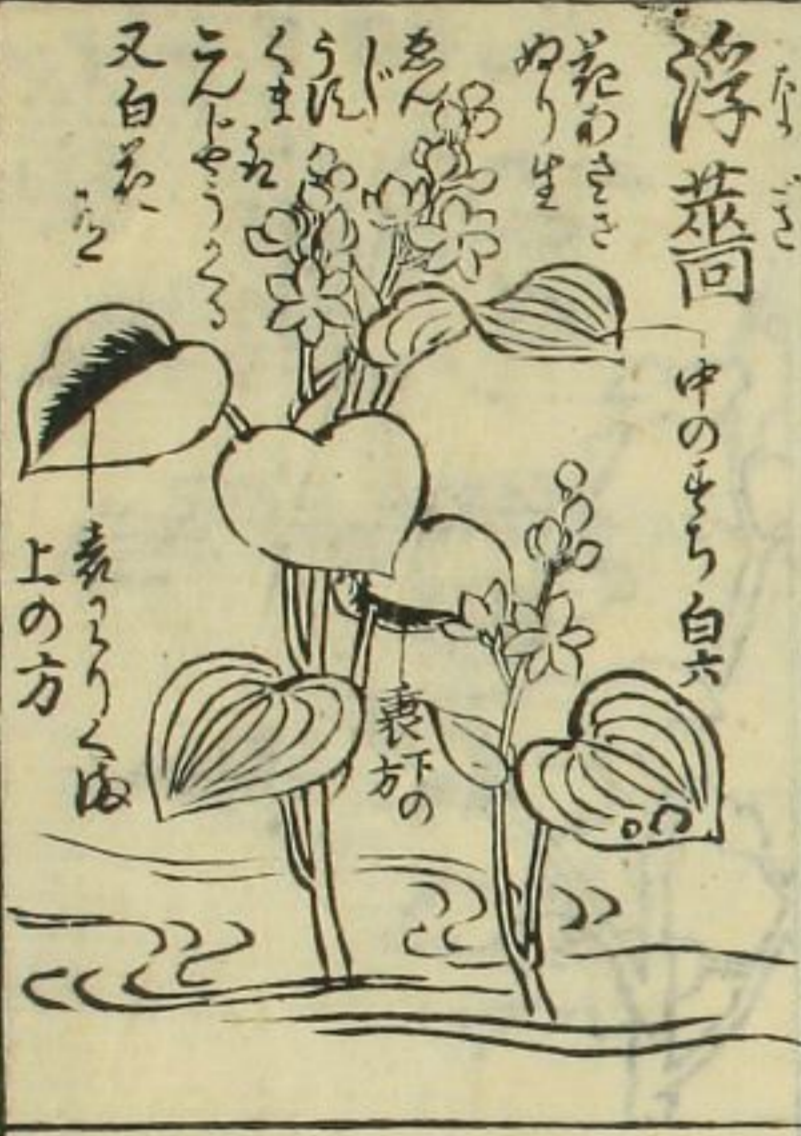
探幽

同

墨畫



花ハうた



浮菖 中のせら白
 花ハさき
 ぬりせ
 又白あり

上方

桔梗



花ハさき
 ぬりせ
 又白あり



木槿
紅白
單重



胡枝
和文
草花

生花
白あり
付之
生花
赤入
六子
三つと



龍膽

わさねのり生花トハ
らんやう 藍こらんこおひ



野菊

あまのり
しやうり
やうり
やうり



芭蕉

緑青常の
ゆる昔緑
くはる回
しり

古法 元信筆



芒
生花
五回
一節

葉の
まはら
り



楓樹

又格
遠山の
そまはる

冬

蘆

冬一節の如



枇杷花

枇杷の葉ハ
志とく朱
もくくマ



蘆

種ハ合葉土
ゆり朱葉



南燭

葉土の
くゆる葉
より合葉土
くゆる朱
葉
方より
緑色



水仙

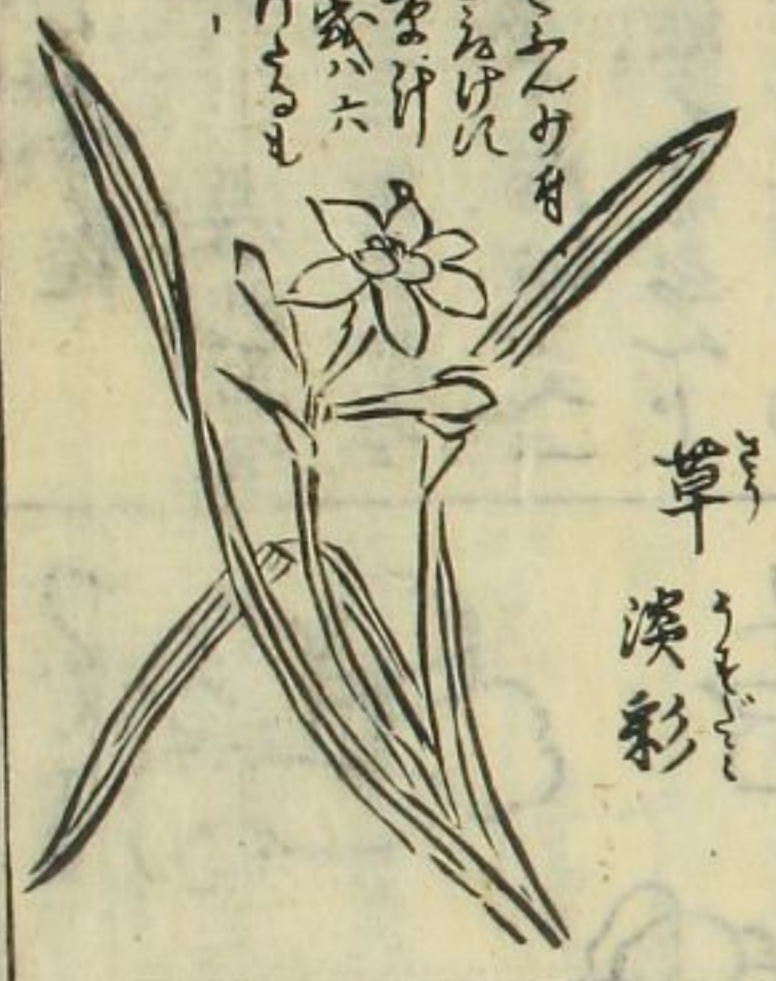
花ハ白六
ゆりこく人
中心ハ
肉色ハ
白六ハ
白六の上
すらハ
白六



行
中
彩

同

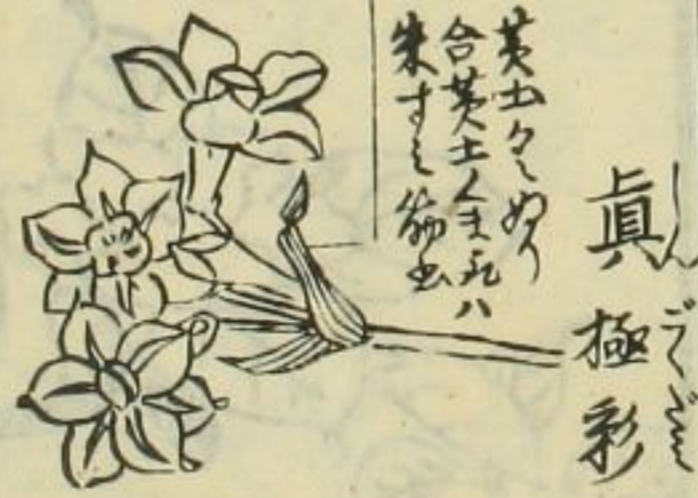
花ハ白六
ゆりこく人
中心ハ
肉色ハ
白六ハ
白六の上
すらハ
白六



草
淡
彩

同

葉土の
くゆる葉
より合葉土
くゆる朱
葉
方より
緑色



真
極
彩

同

花ハ白六
ゆりこく人
中心ハ
肉色ハ
白六ハ
白六の上
すらハ
白六



葉
淡
彩

白六
葉汁
ゆり

山茶花

日丹 肉色
彫塗又二層なり
朱と以て彫塗又一
層に塗て生多しト
いく曲と丸出ま
かのみしを上に曲
とれ右(五等)その
外(か)のみし丹まで
増し退めりは
陳(の)遍地錦

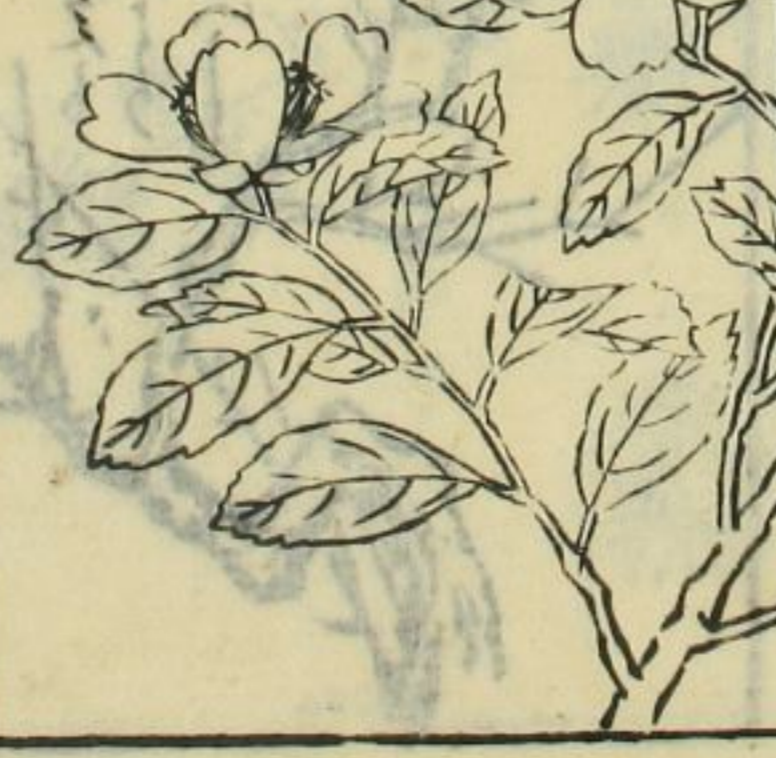


生多し其はぼろ彫なり又淡一篇
ゆりてかの方より調脂くぬれ出
蛤粉退曲をいひもよし葉ハ

緑青の上割曲れとちと引従
汁ハ藤葉を濃く毛の切ぎる
筆で以てひらりとまじし
ちりとまじりて
魚骨に似ざる極よす
○蓋ハ肉色或真ぶたつた後葉
と心(の)星(の)形像よく描く
氣に脱くわくと
身書法の大事
高流の秘訣也

茶梅花

花白
海紅花
淡濃二色
生多し
わり潤脂くぬ
とり出れぬ



万年青

冬より春
にまで実
真紅なり



木 枝 並 石之圖

岩木の類として描がされ
物より宜く心を用ひ
木と描り大意あり船と
表と裏と交てあふんば

一變



此圖のくちりとくちりふくして

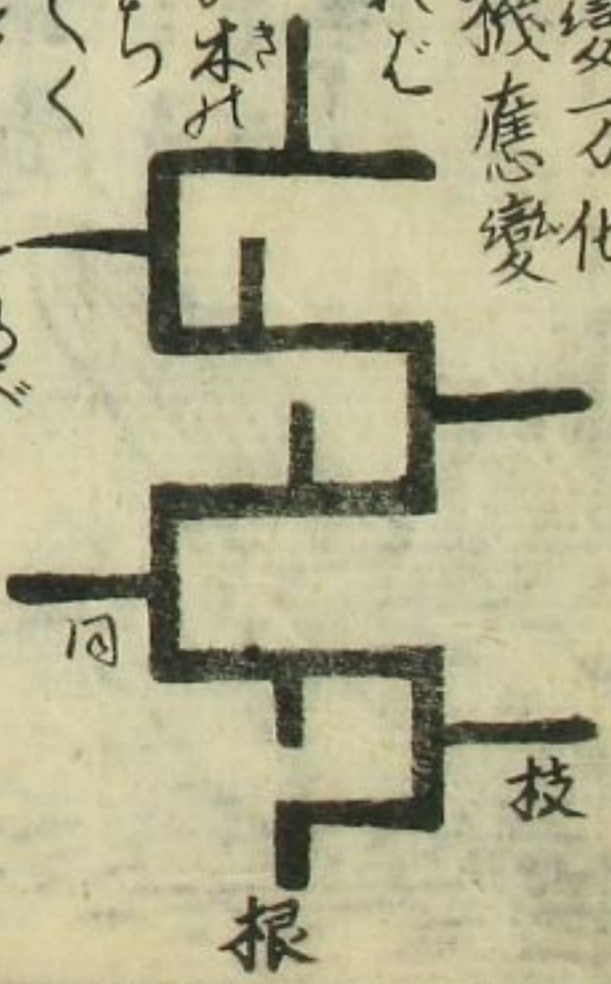
千變万化
臨機應變

これど

諸の本

しくく

くましくを好



二變

千變万化
これより
あへ



守房筆

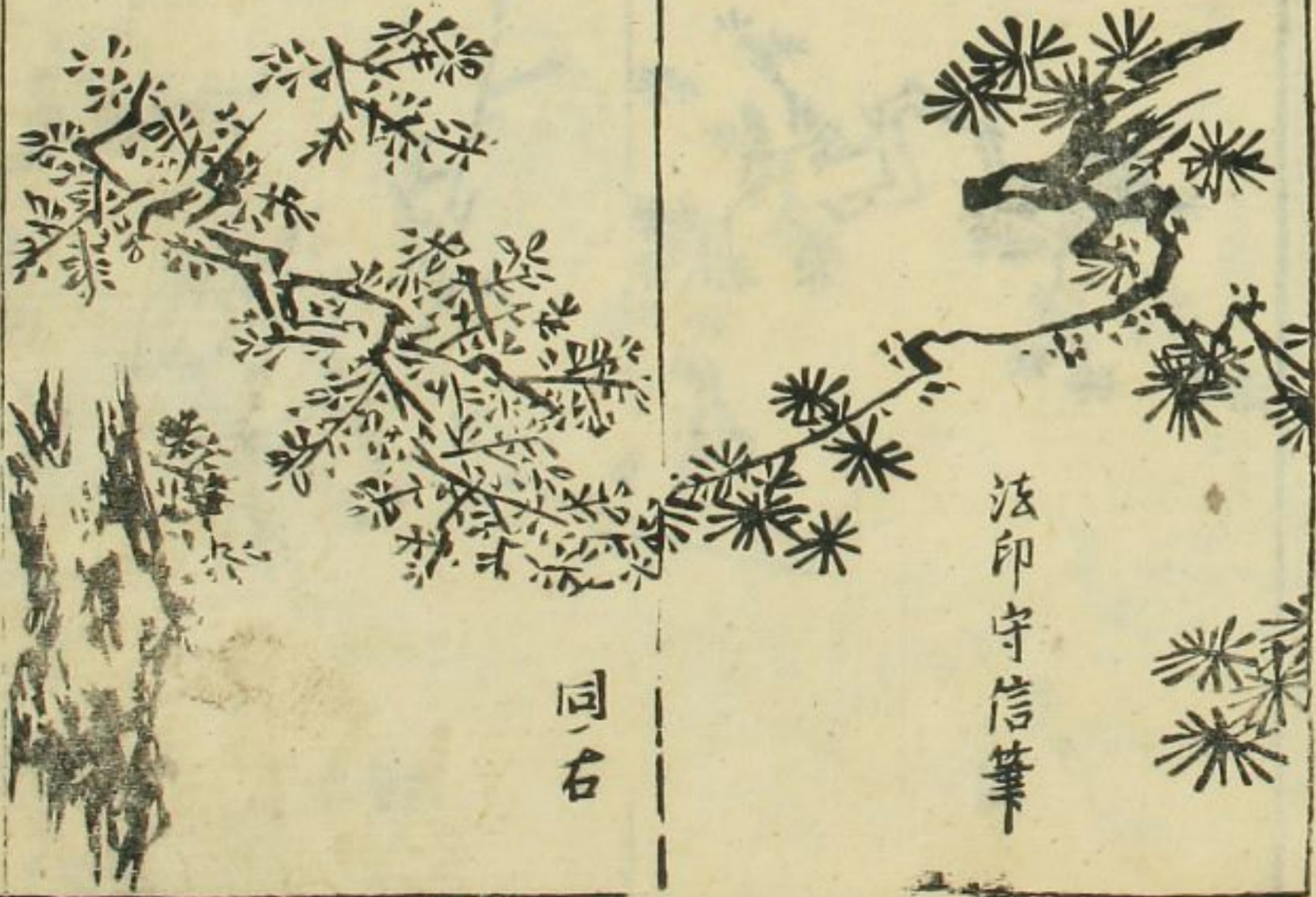


同右



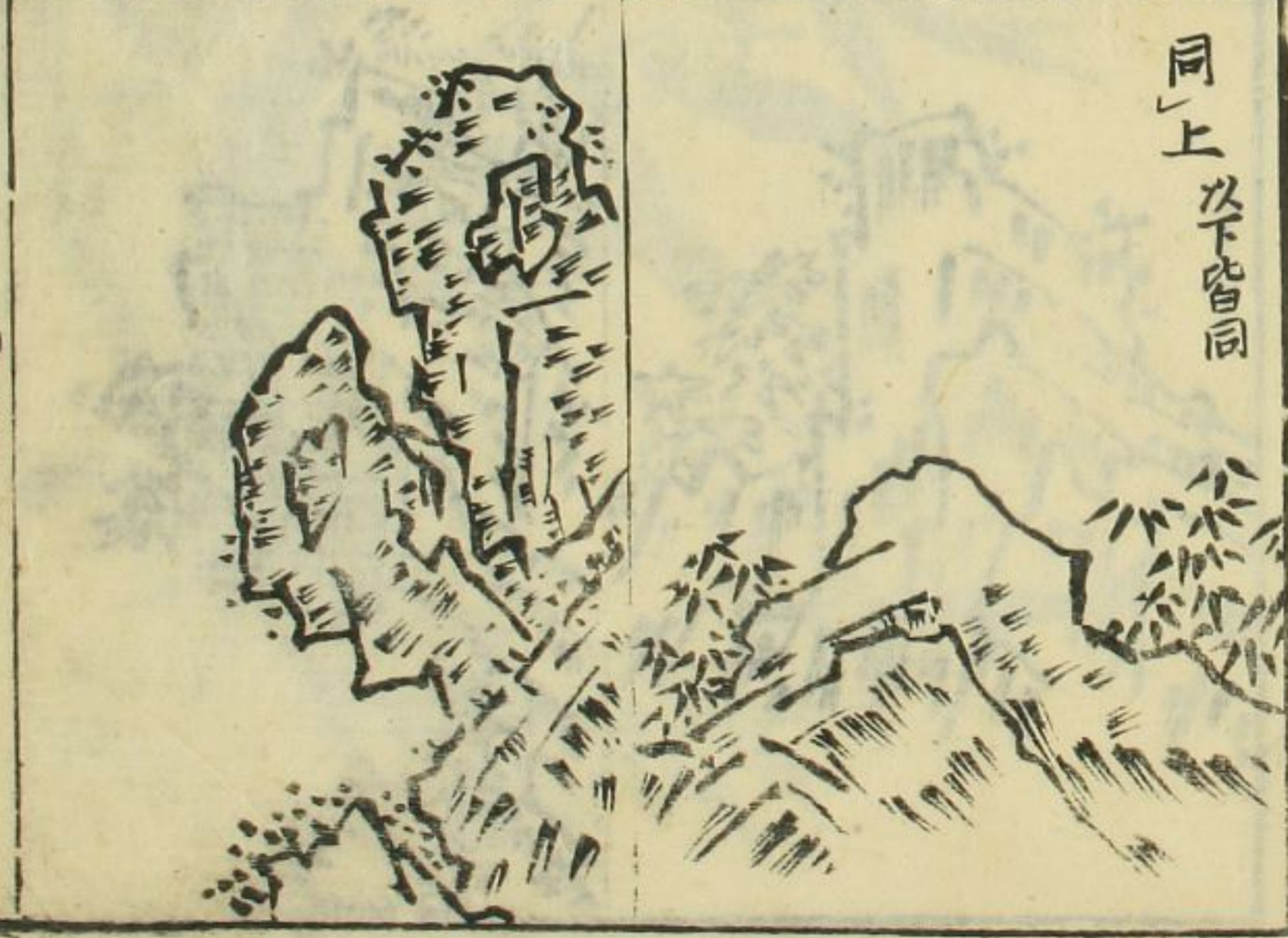
法印守信筆

同右

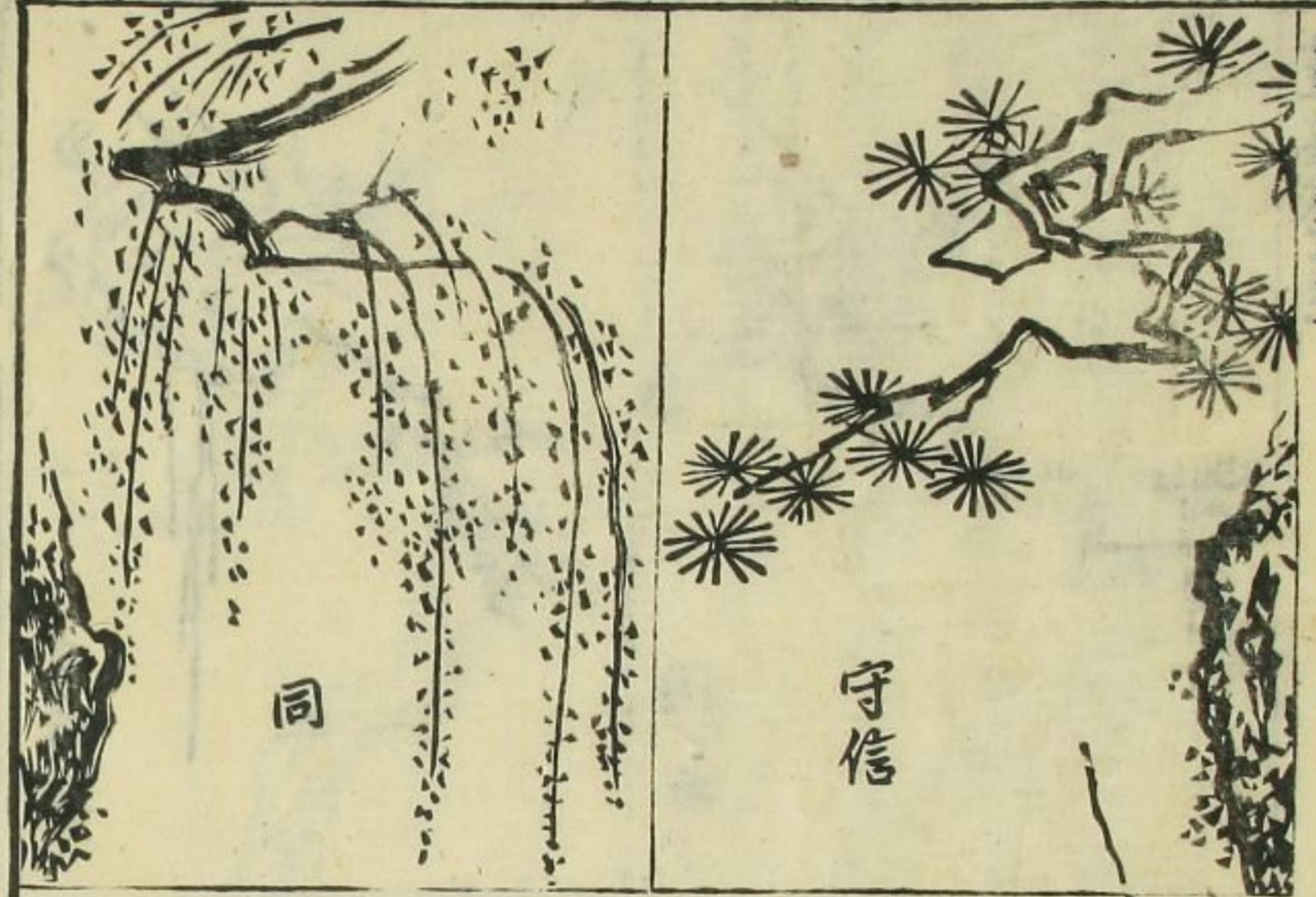




法眼元信

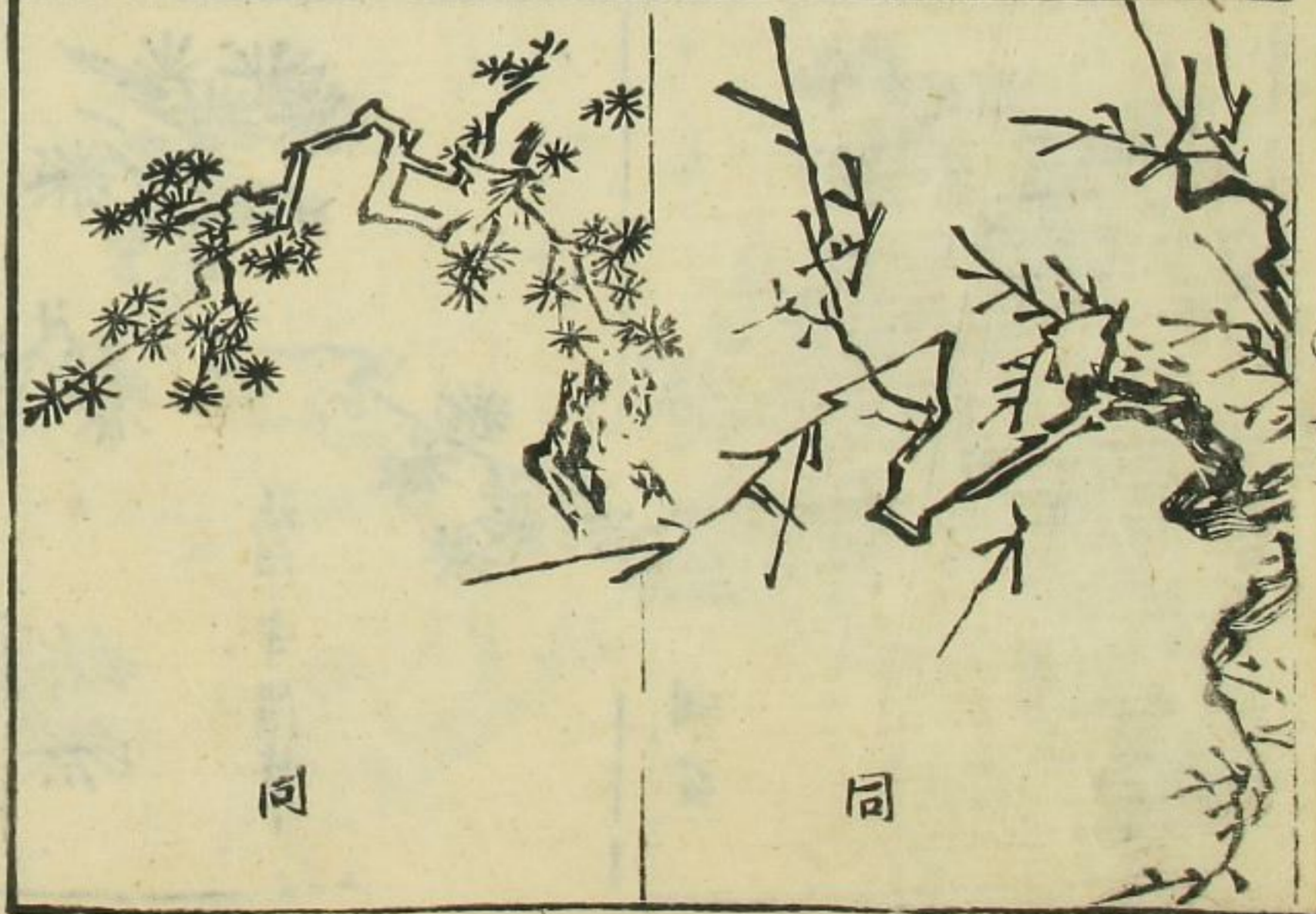


同上 以下皆同



同

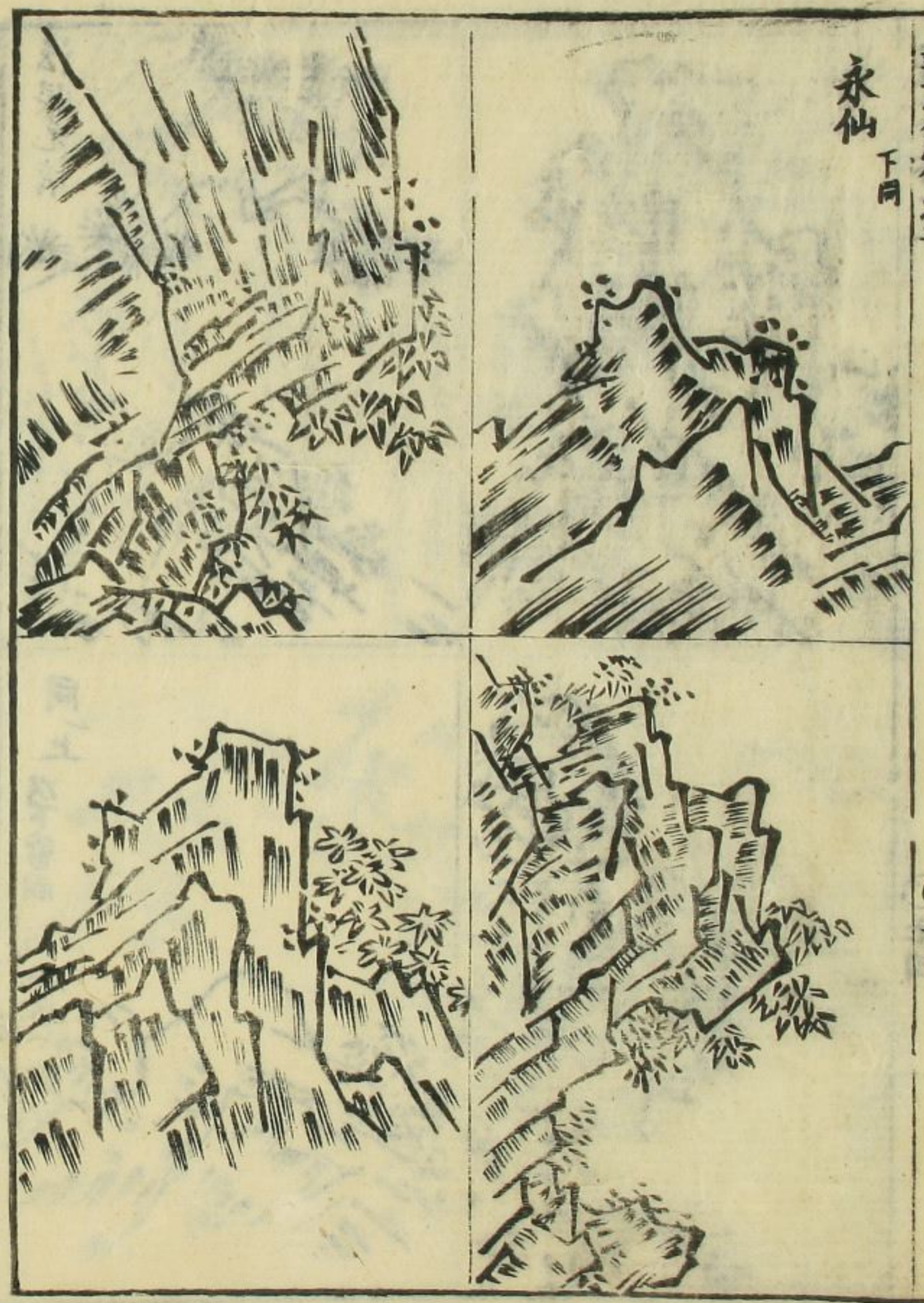
守信



同

同

永仙 下同



休と畫し体用あり
陰陽淡淡錯節高低
右幹左幹細分鶴爪个
葉散散雅子先指子
飛狐燕二蚕能首四魚
龍且尖二平尖大段小段
右より左に決りたり
意九八病あり三才園會
八種畫譜圖繪宗景と
くしー○墨筆の小作ハ
檀芝瑞々風なり竹ハ
東坡をいへ上り



○廿五

東坡



探幽筆



檀芝瑞



守信筆

竹

松の茂枝



守信筆

松の茂枝

廿二

四時通用

松まつ 和松やまつの樹たけ代體どうたいハ紫むらさき土つち
 具ぐに墨すみか加かへてぬりて上うへと墨すみ
 みく虫むし起おこて又また朱しゆと淡たん志しく大だい
 畧りやくと描えて後あと志しく又また袖そでより
 淡たんすみよて去さて後あと朱しゆすみ
 も粒つぶしてはし但たゞ真草まぐさに依より
 かりて松まつの葉はに草汁くさじゆ
 に全体ぜんたいとぬり白緑しろくより次つぎ
 朱しゆよ二三二三篇ぺんもぬり上うへて又また下した
 の方かたは茂枝もえだより方かたと草汁くさじゆ



土川

はく曲まがより葉はがたよりすりにち
 緑ろくより白緑しろくハ白しろとてあし
 或ある者ものは緑ろくより墨すみか加かへ雷かみなり中なかに松まつの
 こみんよて葉はと墨すみか加かへるも面白おもしろい
 師し曰い葉はの本もとは葉はの莖くきと倒たふさる直ただよ
 引ひく葉はは方かた入い支しへて葉はの
 入い遠とほひをけり後あとより墨すみか加かへる
 如ごとく兩ふた楎こぶしの心こころ持もて多おほく
 多おほく松まつ乃すなは茂枝もえだ甚た描えるもの
 畫え學者がくしやふく心こころ以もつる

新羅松



凡木の根ハ 揺る

葉といやかぬ極よかへ老緑
 とや淡志と中々に竹色と幽深
 へ瀾伸とさるる申許り
 塗へは深草緑と灰と身入又曇
 がさかたれよと処に少死葉と身
 心浮沈あつきてト色成すも身
 上枯葉のあひ合
 美玉とめり朱墨葉
 又上に緑青の桂
 るとよととてり 春時心の色
 中に白緑と六かみの如つて
 四むりふかきとにほくぬ極よか

蘆竹



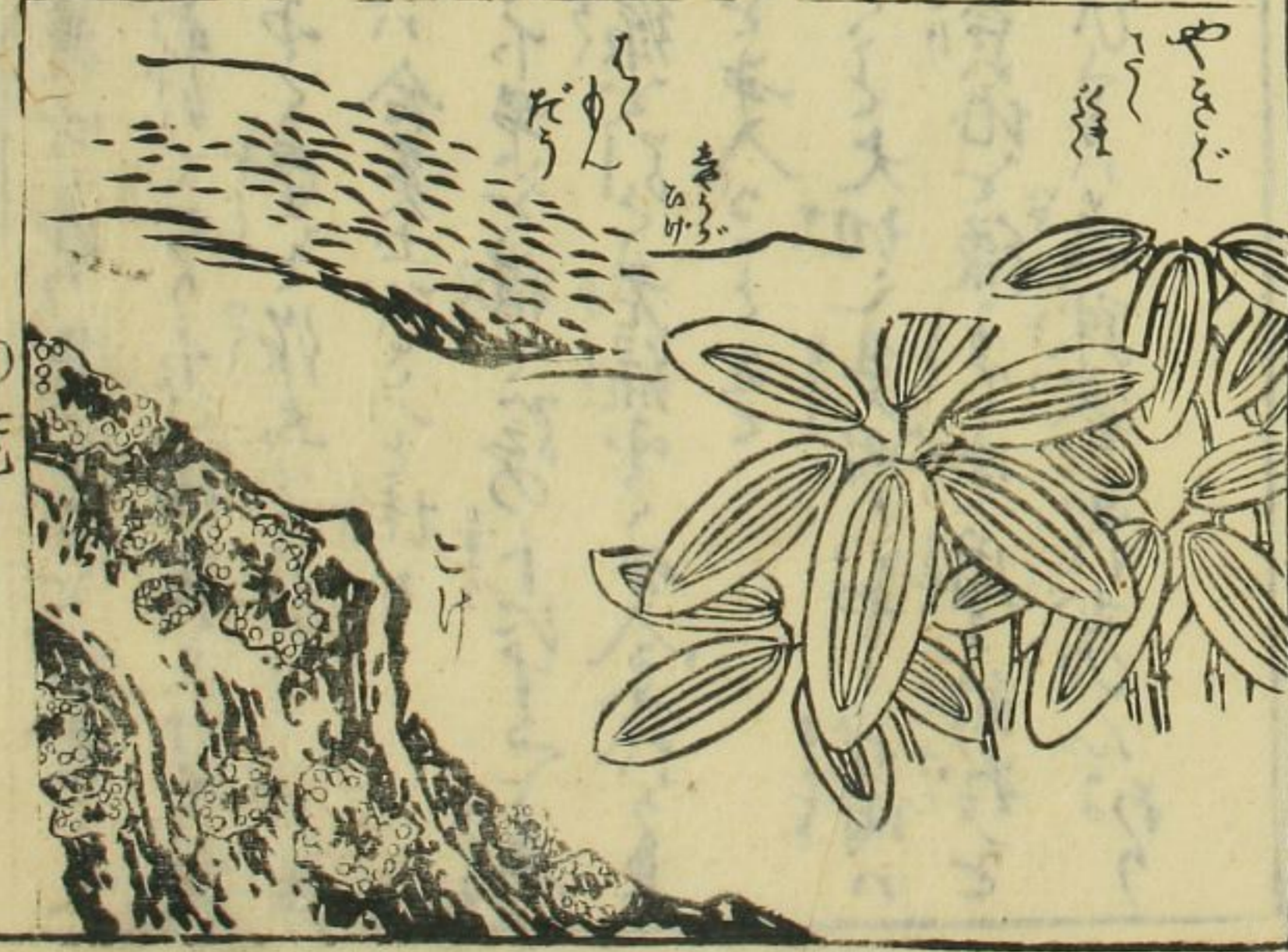
志のけ

くれとけ

籬ハ黄土具と塗朱すと淡
 括又とらと引と外はあどし

吳竹

緑青とぬり次々草汁と灰と節の
 とと三分と通て曲をた
 とをへうに 上は淡下は深上下同
 色よせとふ極よかるととやに
 塗へ下右と淡一飯も皆同と
 蔭ハ緑をれ上と中の方城苦緑
 て總曲とれとトととととととと
 剛ぶらくと描画ととと



燒又條 蓋此よりと黄土具ふとゆり葉のなると緑青にて
 ゆり又茶汁中と幾通とわけてゆり下は深青といけて箱
 小瓶のうへに茶汁の上は白緑中く墨と作志なるはわくは合
 て籠ふまゝ一周の葉のぐれ処の合黄土紙とつと挂る
 下草 花を陰に必と下草と描て陰のトにするは
 冬とわひふひてとむるは嫩緑と引く老緑中く中合を
 葉の処の合黄土と引て朱墨と本入ることあり
 苔 樹や石をに苔と引くこと大切之多時にやし少時に
 志ありは引くまゝと引く○真の苔は地と縁より塗周は粉粉を
 以て墨とつくと籠るはトらに描ひくは疎密に於てのあり
 畫筌卷之二終

早稲田大学図書館

011688993654